YAMAHA

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

取扱説明書



モーターサイクル

YZF-R9 (R9)

D0Y-28199-J0

商標について

Bluetooth®のワードマーク及びロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc.が所有権を有します。
iOS は、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Garmin StreetCross™は Garmin Ltd.の商標です。

JAU27254

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ **警 告**	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
- あなた自身と同乗者のために 1-1
- 歩行者と他の車のために 1-5
- 環境・住民の方との調和のために 1-6

各部の名称 2-1
- 左側面 2-1
- 右側面 2-2
- 運転装置と計器類 2-3

車両の特徴 3-1
- YRC（ヤマハライドコントロール） ... 3-1
- クルーズコントロールシステム 3-6
- YVSL（ヤマハバリアブルスピードリミッター） 3-8
- ESS（緊急停止信号）システム 3-10

スマートフォン連携システム 4-1
- スマートフィーチャー 4-1
- 初期設定 4-3
- 電話 4-6
- 接続エラーが発生したときは 4-7

各部の取り扱いと操作 5-1
- キーの取り扱い 5-1
- イモビライザーシステム 5-2
- メインスイッチ 5-2
- ハンドルスイッチ 5-3
- 警告灯と表示灯 5-6
- ディスプレイ 5-9
- メニューシステム 5-21
- シフトペダル 5-42
- ブレーキシステム 5-42
- フューエルタンクキャップ 5-43
- 燃料 5-44
- シート 5-45
- ライダーフートレスト位置の調整 ... 5-46
- ヘルメットホルダー 5-47
- 書類入れ 5-47
- 小物入れ 5-47
- バックミラー 5-48
- フロントフォークの調整 5-48
- リヤクッションの調整 5-51
- ブレーキレバー／クラッチレバーの握り調整 5-54
- DC コネクター 5-54
- USB Type-C ジャック 5-55
- ETC コネクター 5-56
- サイドスタンド 5-56
- イグニッションサーキットカットオフシステム 5-56

日常点検 6-1
- 日常点検の実施 6-1
- 日常点検箇所／点検内容 6-1

運転操作 7-1
- ならし運転 7-1
- エンジン始動 7-1
- ギヤチェンジのしかた 7-2
- ブレーキ 7-3
- 駐車 7-4

点検整備 8-1
- 点検整備の実施 8-1
- サービスツール 8-2
- カバーの取り外し、取り付け 8-2
- エンジンオイル 8-3
- エンジンのかかり具合、異音の点検 ... 8-5
- 低速、加速の状態の点検 8-5
- 冷却水 8-5
- エアクリーナーエレメントの交換 8-7
- タイヤ 8-7
- クラッチ 8-9
- ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検 8-10
- ブレーキランプスイッチの点検 8-10
- ブレーキパッドの点検 8-10
- ブレーキ液量の点検 8-11
- ドライブチェーン 8-12
- ドライブチェーンの給油 8-13
- 車体各部の給油脂状態の点検 8-13
- アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム） 8-14
- バッテリー 8-14
- ヒューズ交換 8-16
- 灯火装置および方向指示灯の点検 ... 8-18
- 運行において異常が認められた箇所の点検 8-19

お車の手入れ 9-1
- 洗車 9-1

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い.....9-2
保管のしかた.....9-3
アフターケア用品について 9-3

製品仕様..... 10-1

ユーザー情報 11-1
二輪車を廃棄する場合は？ 11-1
サービスマニュアル(別売)の紹介...11-2
車両情報 11-2

索引..... 12-1

JAU27281

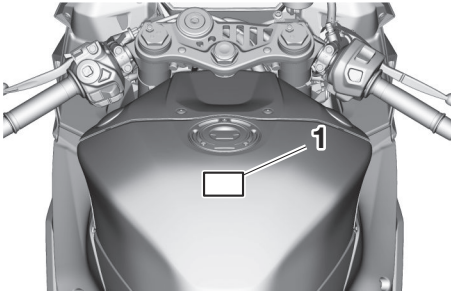
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU2737B

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警 告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - プロテクターを備えた保護性の高い服

で明るく目立つ色のもの
- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



● 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
- ズボンのすそや袖口の広い服
- 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
- ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服





● 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
● 同乗者にも上記の注意を守らせてくださ

い。

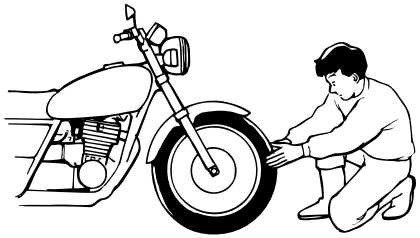
JWA11601

⚠警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。 運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた 1 年、2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

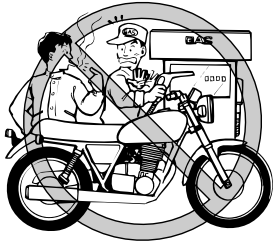
次のような場合は、車が故障しているおそれ

があります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

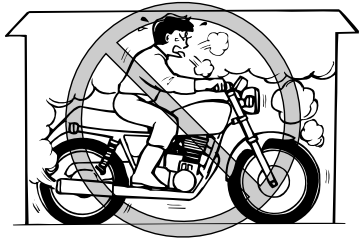
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



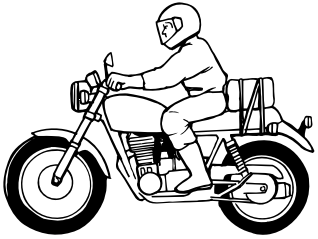
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



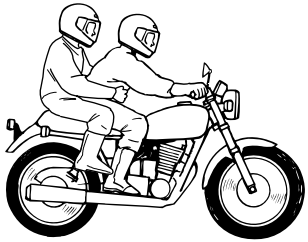
荷物はしっかり固定する

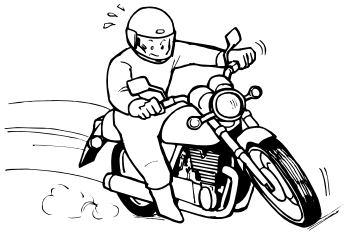


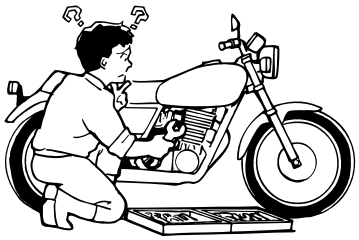
- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。







乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251cm³以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。

検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。

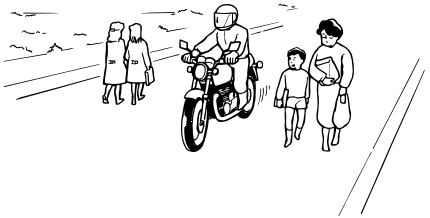


JAU27504

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



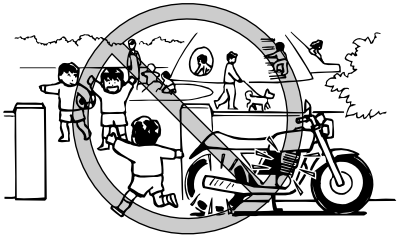
駐車

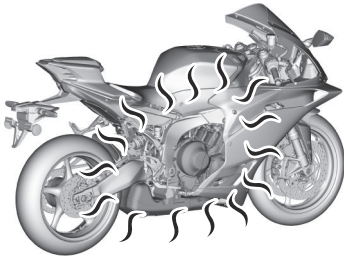
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

⚠ 警 告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。 また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**





昼間はヘッドライトを下向きに

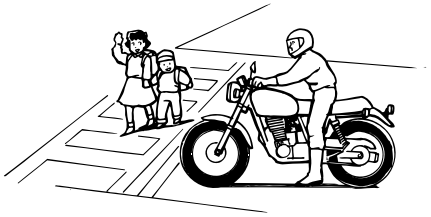
この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27582

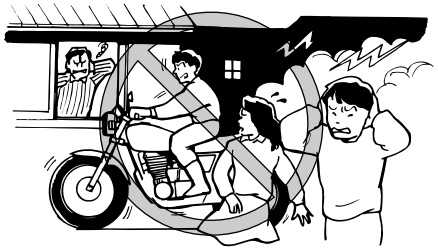
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

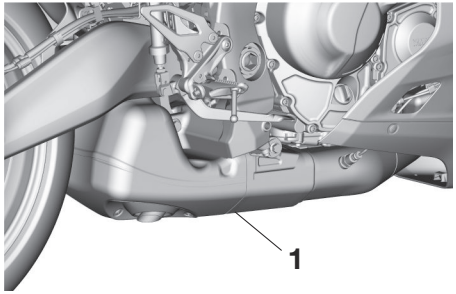


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



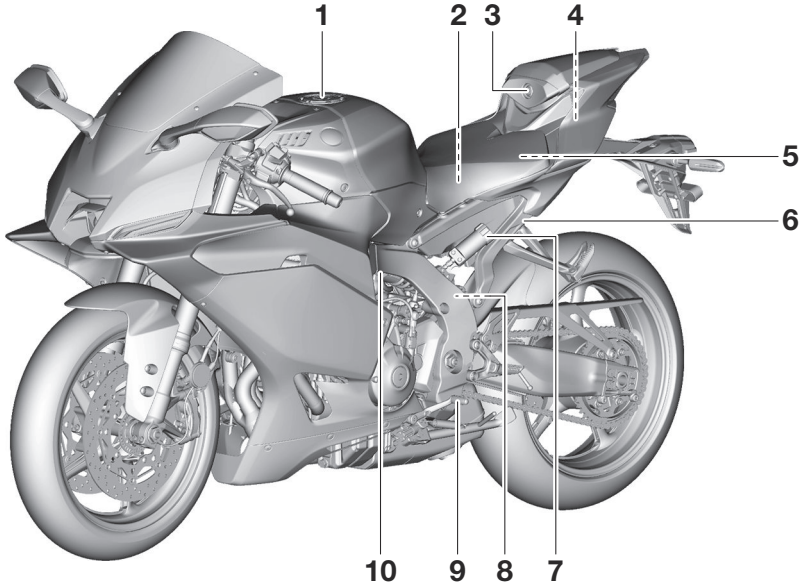
1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU10411

左側面



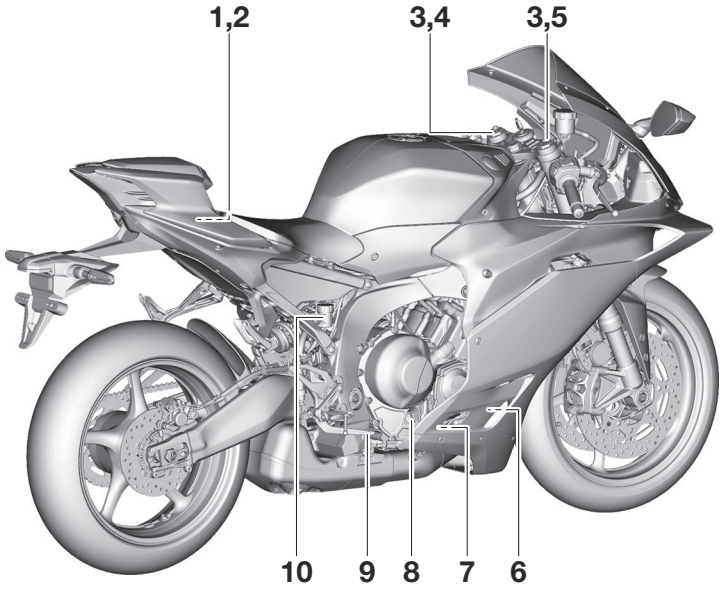
1. フューエルタンクキャップ（P5-43）
2. バッテリー（P8-14）
3. シートロック（P5-45）
4. USB Type-C ジャック（P5-55）
5. ヒューズ（P8-16）
6. ヘルメットホルダー（P5-47）
7. スプリングプリロードアジャスター（P5-51）
8. 伸側減衰力アジャスター (P5-51)
9. シフトペダル（P5-42）
10. 圧側減衰力アジャスター（P5-51）

各部の名称

JAU10421

右側面

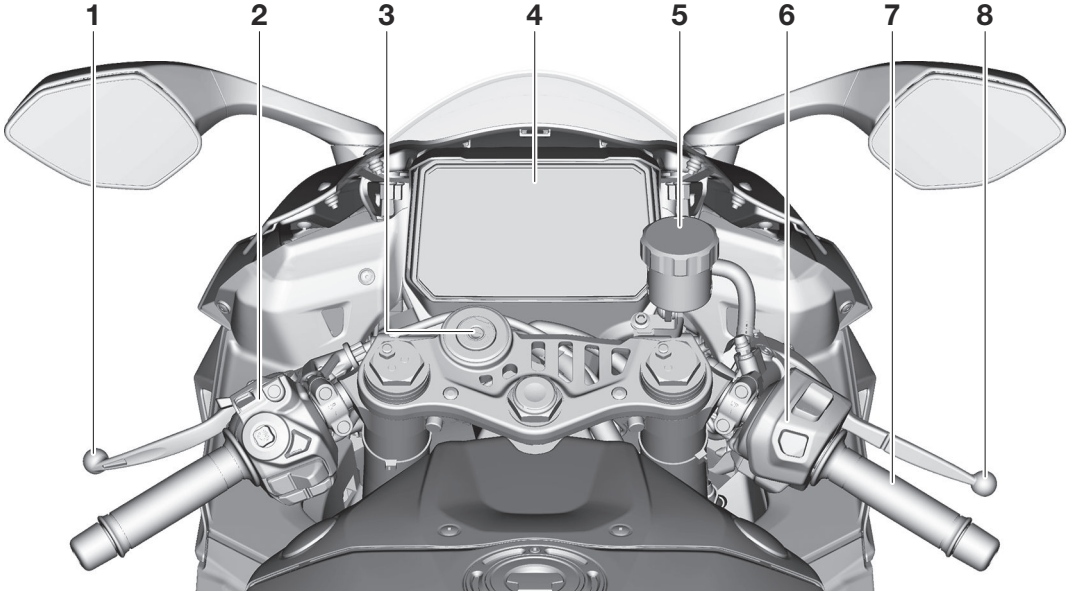
2



1. サービスツール（P8-2）
2. 小物入れ（P5-47）
3. スプリングプリロードアジャスター (P5-48)
4. 圧側減衰力アジャスター（P5-48）
5. 伸側減衰力アジャスター (P5-48)
6. リカバリータンク（P8-5）
7. エンジンオイル点検窓（P8-3）
8. オイル注入口（P8-3）
9. ブレーキペダル（P8-10）
10. リヤブレーキリザーバータンク（P8-11）

JAU10431

運転装置と計器類



1. クラッチレバー（P8-9）
2. ハンドルスイッチ（左）（P5-3）
3. メインスイッチ／ハンドルロック（P5-2）
4. ディスプレイ（P5-9）
5. フロントブレーキリザーバータンク（P8-11）
6. ハンドルスイッチ（右）（P5-3）
7. スロットルグリップ
8. ブレーキレバー（P8-10）

JAUA5415

YRC（ヤマハライドコントロール）

YRC は、多くのセンサーや制御を組み合わせ、より良い走行を支援するシステムです。車両の傾斜角度、加速度や、前後、上下、左右の各方向に沿った力を検出し、1 秒間に複数回の演算処理を行い、必要に応じて自動的に各システムが調整されます。下記の個々の YRC 項目について、オン／オフを切り替えたり、ライダーや走行状況に合わせた調整をすることができます。設定の詳細は、メニュー画面の項目をご覧ください。（5-31 ページ参照）

JWA18221

⚠ 警 告

ヤマハライドコントロール（YRC）システムは、過度の速度超過などによる車両のコントロール不能やコーナリング時のスリップ、急カーブ走行および制動中からの急激な加速への移行といった、不適切な運転操作に対しては車輪のスリップや前輪が浮いてしまうことを防ぐことはできません。運転者自身の技量限度内で運転し、周囲の状況に応じた運転を心がけましょう。無理な走行は行わず、YRC の設定や運転操作全般に慣れるようにしましょう。

SC（スタビリティコントロールシステム）

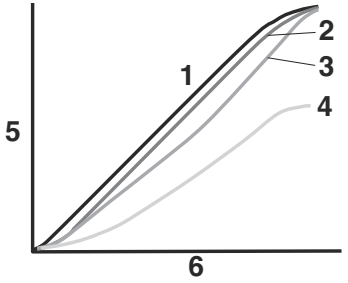
スタビリティコントロールシステムは、TCS（トラクションコントロールシステム）、SCS（スライドコントロールシステム）、LIF（リフトコントロールシステム）、BSR（バックスリップレギュレーター）で構成されています。これらは、メニューシステムで個別に設定するか（5-31 ページ参照）、メニューシステムで TCS をオフにすることで一括してオン／オフを切り替えることができます。（5-35 ページ参照）

走行中にスタビリティコントロールシステムのいずれかが作動すると、スタビリティコントロール表示灯 “ SC ” が点滅します。（5-8 ページ参照）

PWR（パワーデリバリーモード）

PWR は、スロットルグリップの操作量に応じてスロットルバルブの開度を調整する、4 つの制御マップから構成されています。ライダーの好みや、走行状況に適したモードが選択できます。

レベル 1：スポーティなエンジン出力
レベル 2：スムーズなエンジン出力
レベル 3：マイルドなエンジン出力
レベル 4：雨天等のエンジン出力を抑えたい場合



1. レベル 1
2. レベル 2
3. レベル 3
4. レベル 4
5. スロットルバルブ開度
6. スロットルグリップ操作量

TCS（トラクションコントロールシステム）

TCS は、加速時のスリップを抑制します。センサーが後輪のスリップを検知すると、スリップ状態が回復するまで、エンジン出力を制御します。

また、車両の傾斜角度に応じて自動的に制御します。最適な加速のため、車両が直立しているときはトラクションコントロールシステム制御が抑えられ、コーナリング時には、

強くなります。
TCS は、9 段階の設定レベルがあります。設定レベルが高いほど、システム介入量が大きくなり、より後輪のスリップを抑制するようになります。


トラクションコントロールシステム

要　点

- TCS は、車両が段差を乗り越えたときなどに作動することがあります。
- TCS や他のシステムが作動すると、エンジン音や排気音がわずかに変化することがあります。
- メインスイッチをオンにすると、TCS が自動的にオンになります。TCS は、メインスイッチがオンで車両が停止している場合にのみ、手動でオン／オフを切り替えることができます。
- 泥や砂などの柔らかい路面で車両がスタックしたときは、TCS をオフにすると後輪が抜け出しやすくなります。

JWA15433

⚠警 告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

JCA16801

注 意

必ず指定タイヤを使用してください。（8-7 ページ参照）指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

SCS（スライドコントロールシステム）

SCS は、後輪の横すべりを検知したとき、車体の傾きに応じてエンジン出力を制御します。このシステムは、トラクションコントロールシステムと合わせて、スムーズな走行になるよう支援します。
SCS は、3 段階の設定レベルがあります。設定レベルが高いほど、システム介入量が大きくなり、より後輪の横滑りを抑制するようになります。
レベル 1：スポーティな走行に適しています。
レベル 2：ストリート走行に適しています。
レベル 3：濡れた路面や滑りやすい路面での走行に適しています。

LIF（リフトコントロールシステム）

LIF は、発進時やコーナーからの脱出時など、極端な加速時に前輪が浮き上がることを抑制します。前輪の浮き上がりを検知すると、エンジン出力を調整して前輪の浮き上がりを緩やかにし、最適な加速が得られるよう制御します。
LIF は、3 段階の設定レベルがあります。
設定レベルが高いほど、システム介入量が大きくなり、よりホイールの浮き上がりを抑制するようになります。
レベル 1：リフトコントロールが、最も少な

くなります。よりスポーティな走行に適しています。
レベル 2 : 中程度のリフトコントロールになります。スポーティな走行に適しています。
レベル 3 : リフトコントロールが、最も多くなります。ストリート走行に適しています。

EBM（エンジンブレーキマネージメント）

EBM は、スロットルオフやシフトダウンの際のエンジンブレーキの強さを制御します。
EBM は、2 段階の設定レベルがあります。
レベル 1 : システム介入が最小になり、エンジンブレーキの効きは最大になります。
レベル 2 : システム介入が最大になり、エンジンブレーキの効きは最小になります。

JWA20880

⚠ 警 告

ギヤをシフトダウンする前に、エンジンが十分に減速していることを確認してください。エンジン回転数が高過ぎる状態でシフトダウンすると、後輪のトラクションが失われる可能性があります。これにより、車両の制御が不能になり、事故や怪我の原因となります。また、エンジンや駆動系を損傷するおそれがあります。

QS（クイックシフター）

QS は、電子制御により、クラッチ操作なしでのシフトチェンジを可能にしています。シフトロッド部にあるセンサーがシフトペダルの動きを検知すると、エンジン出力が瞬間的に調整され、変速が可能になります。
QS は、クラッチレバーが握られているときは機能しません。クイックシフターがオンになっていても、クラッチレバーを使用した通常の操作が可能です。クイックシフターの状態については、QS アイコンを確認してください。

クイックシフターの状態	QS アイコン
シフトアップ可能	QS △▽
シフトダウン可能	QS △▼
クイックシフター使用不可	QS △▽
クイックシフターオフ	QS △▽

シフトアップ操作の可能な条件

- 車両の速度が 15 km/h 以上
- エンジン回転数が 2000 r/min 以上
- エンジン回転数がレッドゾーンより十分に低い

シフトダウン操作の可能な条件

- 車両の速度が 15 km/h 以上
- エンジン回転数が 1600 r/min 以上
- エンジン回転数がレッドゾーンより十分に低い

要　点

- QS △ と QS ▽ は個別に設定できます。
- ギヤをニュートラルにするとき、またはニュートラルから他のギヤへシフトチェンジするときは、クラッチレバーを使用してください。

BC（ブレーキコントロール）

BC は、ブレーキを操作しホイールがロックしたとき、前後輪それぞれのブレーキの油圧を個別に調整します。このシステムは、2 つの設定があります。

- OFF：標準の ABS 制御です。走行速度とホイールの回転速度からブレーキ圧を調整します。車体が直立した状態でブレーキをかけたとき、最大限の効果を得られるように設計されています。
- ON：標準の ABS 制御に加え、コーナリングアシストブレーキが有効になります。IMU からの情報に基づきコーナリング時の制動力を調整し、ホイールがスリップす

ることを抑制します。
ブレーキシステムの詳細については、5-42 ページを参照してください。

要　点

- リヤブレーキの ABS をオフにすると、BC（ブレーキコントロール）は無効になります。
- 熟練したライダーやトラック走行の場合、さまざまな条件により、BC システムが希望のコーナリングスピードや意図したコーナリングラインに対して、想定よりも早く作動する場合があります。
- テーマが Track の場合、BC は自動的にオフになります。ただし、設定メニューから手動でオンにすることができます。

JWA22532

⚠警　告

- **BC を ON にしていても、コーナリング中に強いブレーキングをすると、ホイールが滑ってバランスを崩すことがあります。十分に減速してからコーナーに進入してください。**
- **一般公道以外では、BC を使用しないでください。BC が正しく作動せず、事故につながる可能性があります。**

BSR（バックスリップレギュレーター）

BSR は、滑りやすい路面での減速時やシフトダウン時のスリップやロックを抑制します。センサーが後輪のスリップを検知すると、バックスリップレギュレーターはスリップ状態が回復するまで、エンジン出力を制御します。

要　点

- BSR は、車両が段差を乗り越えたときなどに作動することがあります。
- BSR や他の YRC システムが作動すると、エンジン音や排気音がわずかに変化することがあります。
- 熟練したライダーやトラック走行の場合、さまざまな条件により、BSR の介入によって意図した車体コントロールと異なる場合があります。

JWA22700

⚠警　告

バックスリップレギュレーターは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。コーナー進入時やブレーキング時のスピードの出し過ぎによるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことはできません。他の車両と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

JCA28580

注　意

必ず指定タイヤを使用してください。（8-7 ページ参照）指定サイズ以外のタイヤを使用すると、バックスリップレギュレーターは、タイヤの回転を正確に制御することができません。

LCS（ローンチコントロールシステム）

LCS は、発進時にスムーズで素早いスタートをサポートします。スロットルグリップをいっぱいまで回したときでも、発進時のエンジン回転数の上昇を抑えます。LCS は、TCS（トラクションコントロールシステム）や LIF（リフトコントロールシステム）と連携してエンジン出力を制御し、最適なトラクションと前輪の浮き上がりを抑えます。
LCS は、レベル 1、レベル 2 またはオフに設定できます。
レベル 1：エンジン回転数が 9000 r/min を超えないようになります。
レベル 2：エンジン回転数が 8000 r/min を超えないようになります。
OFF：LCS 機能がオフになります。

JCA22951

注 意

LCS を使用する場合でも、クラッチの損傷や予期しない車両の動作を防ぐために、クラッチレバーを徐々に離してください。

要 点

- LCS はサーキットでのトラック走行のみでの使用を対象としています。
- LCS は、LIF と TCS がオンの場合にのみ使用できます。

LCS の使い方

1. ディスプレイのテーマを Track に切り替えます。
2. LCS 設定は、OFF、レベル 1、レベル 2 から選択できます。現在選択中の TRACK モードで LCS がオフに設定されている場合、ホームボタン“⌂”を押してメニューシステムを開き、ジョイスティックを使用して“LCS Launch Control”をハイライト表示し、ジョイスティックを上下に操作して LCS の設定レベルを調整します。
3. LCS 表示灯“LCS”がグレーになっていると、LCS はスタンバイ状態です。
   以下の 1 つ以上が当てはまる場合は、LCS 表示灯が消灯しています。
   - LCS がオフに設定されている。
   - TCS および／または LIF がオフに設定されている。
4. スタンバイ状態から YRC モードボタン“MODE”を長押し、またはホームボタン“⌂”を短押しし、メニューシステムから“LCS Launch Control”を選択します。
   LCS 表示灯“LCS”が緑色に点滅し、LCS が有効になると点灯に変わります。
5. 希望する回転数（選択した LCS レベルに基づいて制限されます）までスロットルを開き、静かにクラッチをつなぎます。
6. 発進後、ブレーキが作動するかスロットルを閉じるまで、LCS 表示灯“LCS”は点灯したままになります。

要 点

LCS が有効な状態“LCS”なのは 15 秒間で、その後はスタンバイ状態“LCS”になります。

要 点

- LCS が有効で LCS 表示灯“LCS”が緑色に点灯している場合は、LCS 設定レベルは変更できず、メニューシステムの“Settings”、“TRACK Settings”、“Theme”はグレー表示になります。
- LCS がオフに設定されている場合、YRC モードボタン“MODE”を使用して LCS を有効にすることはできません。

JAUA5424

クルーズコントロールシステム

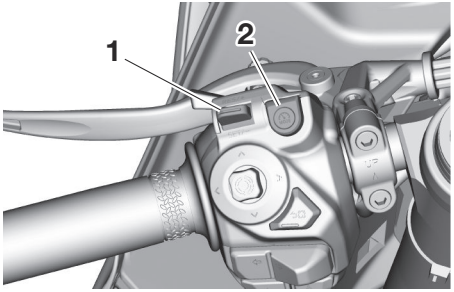
この車両は、一定のスピードを維持するためのクルーズコントロールシステムを装備しています。

クルーズコントロールシステムは、3 速以上のギヤで、約 50 km/h～180 km/h の間で走行しているときにのみ作動します。

JWA22860

⚠ 警 告

- **法定速度を守って走行してください。**
- **クルーズコントロールシステムを誤って使用すると、制御を失い、事故につながる可能性があります。クルーズコントロールシステムは、交通の激しい場所、悪天候時、カーブの多い道、滑りやすい道、斜面、凹凸のある道、または砂利道などで作動させないでください。**
- **上り坂または下り坂を走行する場合、クルーズコントロールシステムは設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。**
- **クルーズコントロールシステムを誤って作動させないため、使用しないときはスイッチを切ってください。クルーズコントロールアイコン “ ” が消灯していることを確認してください。**



1. クルーズコントロール／YVSL 設定スイッチ “RES/+” / “SET/–”
2. クルーズコントロール／YVSL ボタン “MODE”

クルーズコントロールシステムの起動

1. クルーズコントロール/YVSL ボタン “MODE” を押して、システムを起動します。クルーズコントロールアイコン “ ” と速度設定アイコン “---” が点灯し、システムがスタンバイ状態であることを示します。
2. クルーズコントロール/YVSL 設定スイッチを “SET/–” 側へ押すと、クルーズコントロールシステムが作動します。現在の速度が設定したクルージングスピードとなり、速度設定アイコン “100 km/h” が緑色で表示されます。クルーズコントロールアイコン “ ” も緑色に表示されます。

要 点

クルーズコントロールアイコン “ ” がオレンジ色に点灯した場合は、ヤマハ販売店に点検を依頼してください。

設定したクルージングスピードの調整

クルーズコントロールシステムが作動中に、クルーズコントロール/YVSL 設定スイッチの “RES/+” 側を押すと、設定したクルージングスピードが増加し、“SET/–” 側を押すと減少します。それに応じて、車速と速度設定アイコン “100 km/h” に表示される速度が変わります。

要 点

クルーズコントロール/YVSL 設定スイッチの “RES/+” または “SET/–” を 1 回押すと、設定速度が 1 km/h 単位で変化します。クルーズコントロール/YVSL 設定スイッチの “RES/+” または “SET/–” 側を長押しした状態にすると、スイッチを離すまで速度が 10 km/h ずつ増減します。

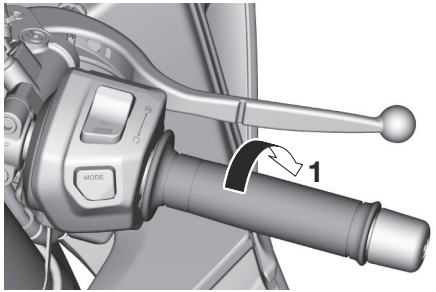
スロットルを使って手動で走行速度を上げることもできます。加速後、クルーズコントロール/YVSL 設定スイッチの “SET/–” 側

を押すことで、新しいクルージングスピードを設定することができます。新しいクルージングスピードを設定しない場合、スロットルグリップを戻すと、車両は以前に設定したクルージングスピードまで減速します。

クルーズコントロールシステムのスタンバイ状態

クルーズコントロールシステムをスタンバイ状態にするには、以下のいずれかの操作を行います。システムがスタンバイ状態になると、クルーズコントロールアイコン“ ”と速度設定アイコン“100 km/h”の緑色のステータスが消灯します。

- スロットルグリップを、全閉位置よりさらに減速方向に回します。



1. 減速方向

- フロントブレーキまたはリヤブレーキをかけます。
- クラッチを切ります。
- ギヤチェンジします。

要　点

クルーズコントロールが停止すると、スロットルグリップを回さない限り、走行スピードは減少します。

レジューム機能の使用方法

クルーズコントロールシステムを再び作動させるには、クルーズコントロール/YVSL設定スイッチの“RES/+”側を押します。走行スピードは前回設定したクルージングスピードに戻ります。クルーズコントロールアイコン“ ”と速度設定アイコン“100 km/h”が緑色に点灯します。

JWA16351

⚠警　告

前回設定したクルージングスピードが現在の走行状況に対して速すぎる場合、レジューム機能を使用することは危険です。

クルーズコントロールの停止

クルーズコントロール/YVSL ボタン“MODE”を押すと、クルーズコントロールシステムはオフになり、クルーズコントロールアイコン“ ”と速度設定アイコン“100 km/h”が消灯します。

要　点

クルーズコントロールシステムまたは車両の電源がオフになると、以前に設定したクルージングスピードは消去されます。新しいクルージングスピードが設定されるまで、レジューム機能を使用することはできません。

クルーズコントロールシステムの自動停止

クルーズコントロールシステムは、他のコントロールシステムと連動して制御されています。クルーズコントロールシステムは、以下の条件で自動的に停止します。

- クルーズコントロールシステムが設定したクルージングスピードを維持できない場合（急な坂道を上るときなど）
- ホイールスリップまたはホイールスピンが検出された場合（トラクションコントロールシステムがオンの場合、トラクションコントロールシステムが作動します。）
- エンジンオペレーションスイッチ“ /

○/⊛”を“⊠”にした場合
- エンジンが停止した場合
- サイドスタンドが下げられた場合

上記の状態でクルーズコントロールシステムが自動停止すると、クルーズコントロールアイコン“ ”と速度設定アイコン“100 km/h”が数秒間点滅した後、消灯します。
クルーズコントロールシステムを再び使用するには、クルーズコントロール/YVSL ボタン“MODE”を押し、システムを作動させてください。

要　点

上り坂や下り坂を走行中に、クルーズコントロールシステムが設定したクルージングスピードを維持できない場合があります。
- 車両が上り坂を走行している場合、実際の走行速度が設定クルージングスピードより低くなることがあります。このような場合は、スロットルを使用して希望の走行速度まで加速してください。
- 車両が下り坂を走行している場合、実際の走行速度が設定クルージングスピードより高くなることがあります。この場合、クルーズコントロール/YVSL 設定スイッチで設定クルージングスピードを調整することはできません。走行速度を下げるには、ブレーキをかけてください。ブレーキをかけるとクルーズコントロールは停止されます。

JAUA4796

YVSL（ヤマハバリアブルスピードリミッター）

このモデルには、走行時の最高速度を制限する、YVSL が装備されています。
50 km/h から 180 km/h の間で設定できます。設定した制限速度に達すると、車両が設定速度を超えないようにエンジン出力が制御されます。

JWA22900

⚠警 告

● YVSL を誤って使用すると、制御を失い、事故につながる可能性があります。YVSL は、交通の激しい場所、悪天候時、カーブの多い道、滑りやすい道、斜面、凹凸のある道、または砂利道などで作動させないでください。
● 上り坂または下り坂を走行する場合、または急加速を行った場合は、YVSL は設定した制限速度を維持できない可能性があります。
● 走行前に YVSL システムのオン／オフを確認してください。
● YVSL を誤って作動させないため、使用しないときはスイッチを切ってください。YVSL アイコンが消灯していることを確認してください。



1. YVSL アイコン
2. 速度設定アイコン

要　点

YVSL は、下り坂を走行しているときや急加速しているとき、またはギアシフトの直後は設定速度を維持できないことがあります。

- 設定した制限速度を 5 km/h 以上超えて 3 秒以上走行した場合、速度が制限内に低下するまで YVSL アイコン “LIM” と速度設定アイコン “100 km/h” が点滅します。
- 設定した制限速度を超えた場合は、ブレーキをかけてください。

YVSL を解除すると、エンジン出力の制限が徐々に解除され、通常のスロットル操作ができます。

YVSL の作動と設定

1. ハンドルバー（左）のクルーズコントロール/YVSL ボタン “MODE” を押します。クルーズコントロールアイコン “ ” が白色または黒色に点灯します。
2. クルーズコントロール/YVSL ボタン “MODE” をもう一度押すと、YVSL スタンバイ状態に切り替わります。YVSL アイコン “LIM” と速度設定アイコン “---- km/h” が白色または黒色に点灯します。
3. クルーズコントロール/YVSL 設定スイッチの “SET-” 側を押して、YVSL を作動させます。YVSL アイコン “LIM” が点灯し、制限速度が現在の車速に設定され、速度設定アイコン “100 km/h” に表示されます。

要　点

- クルーズコントロールシステムが作動し、クルーズコントロールアイコン “ ” が点灯しているときに、クルーズコントロール/YVSL ボタン “MODE” を押すと、YVSL スタンバイ状態に切り替わります。
- クルーズコントロールシステムと YVSL システムの両方を同時に作動させることはできません。

制限速度の設定

YVSL の作動中にクルーズコントロール/YVSL 設定スイッチの “RES+” 側を押すと、設定した制限速度が増加し、“SET-” 側を押すと設定した制限速度が減少します。

要　点

クルーズコントロール/YVSL 設定スイッチを一度押すごとに、設定スピードが約 1 km/h 変化します。設定スイッチを押したまま保持すると、スイッチをはなすまで、設定スピードが 10 km/h ずつ変化します。

YVSL の解除

YVSL が解除されると、エンジン出力制限が解除され、通常のスロットル操作ができます。

ハンドルバー（左）のクルーズコントロール/YVSL ボタン “MODE” を押します。

YVSL システムはスタンバイ状態に戻り、YVSL アイコン “LIM” と速度設定アイコン “100 km/h” が点灯します。クルーズコントロール/YVSL ボタン “MODE” を再度押すと、YVSL システムが停止し、YVSL アイコン “LIM” と速度設定アイコン “100 km/h” が消灯します。

YVSL レジューム機能の使用方法

スタンバイ状態のときに YVSL を再び作動させるには、クルーズコントロール/YVSL 設定スイッチの“RES+”側を押します。制限速度が前回設定した制限速度に戻ります。

JWA21210

⚠警 告

前回設定した制限速度が現在の走行状況に対して遅すぎる場合、レジューム機能を使用することは危険です。

要　点

YVSL スタンバイ状態のときに、クルーズコントロール/YVSL ボタン“MODE”を押すと、YVSL システムが完全にオフになり、前回設定した制限速度は消去されます。

レジューム機能は、新たに制限速度を設定するまで使用できません。

JAUA1773

ESS（緊急停止信号）システム

急減速が発生した場合、このシステムが自動的に作動し、すべての方向指示灯が急速に点滅します。

これにより、車両が急速に減速していることを周囲の車両にさらに警告します。

ESS システムは、以下の条件で解除されます。

- ブレーキを解除したとき
- 急減速が検出されなくなったとき

JWA22680

⚠警 告

ESS は衝突防止システムではありません。不必要な急ブレーキは避け、安全運転をこころがけてください。

要　点

- ESS システムは、車両が時速 50 km 以上で走行しているときに急ブレーキを検知した場合にのみ作動します。
- ハザードランプがすでに作動しているときは、ESS は作動しません。
- 方向指示灯のひとつがすでに点滅しているときに ESS が作動した場合、ESS が優先され、すべての方向指示灯が急速に点滅します。
- ABS 警告灯が点灯している場合、ESS は作動しません。

スマートフォン連携システム

4

スマートフィーチャー

JAUA5065

JWA23140

⚠警告

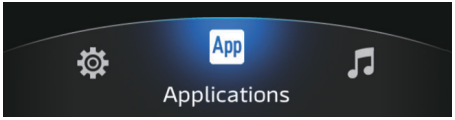
- **走行中に注意を怠ると、死亡または重傷を負うおそれがあります。常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。**
- **設定の変更やスマートフォンの操作を行う場合は、必ず車両を停止してください。**
- **走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。**
- **走行中はハンドルから手を離さないでください。**
- **周辺の状況へ注意を払い、安全を確保するために音量レベルを十分にさげてください。**

この車両はスマートフォン連携システムを搭載しており、CCU（コミュニケーションコントロールユニット）を介してスマートフォンと接続することでスマートフィーチャーを使用できます。

- GPS ナビゲーション（Garmin StreetCross アプリが必要です）（4-5 ページ参照）
- 電話（4-6 ページ参照）
- オーディオプレーヤー（5-39 ページ参照）
- スマートフォンプッシュ通知（5-26 ページ参照）
- 天気（5-25 ページ参照）
- 時計自動更新（5-36 ページ参照）
- 言語設定

要　点

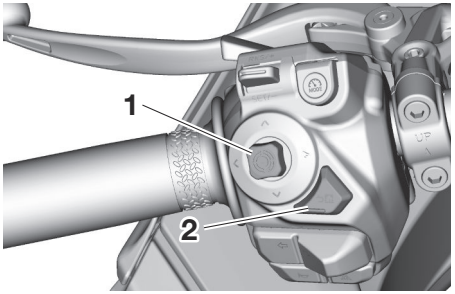
- スマートフォンの機種、OS バージョンによっては、一部の機能が利用できない場合があります。
  また、組み合わされる音楽アプリ、SNS アプリ等によっても正しく機能しない場合があります。
- 車両の電源をオンにした後、CCU とスマートフォンが Bluetooth 接続するまでに約 10 秒かかります。この間、スマートフィーチャーは利用できず、関連するメニューはグレー表示になります。



スマートフィーチャーには、メインディスプレイのメニューシステムからアクセスします。（5-21 ページ参照）メニューシステムと関連するすべての機能は、ジョイスティック／“✔”とホームボタン“⌂”を使用して操作します。（5-5 ページ参照）

はじめに、基本のメニュー操作方法をお読みください。その後、スマートフォンで初期設定と CCU への接続を行ってください。

メニューシステムの操作



1. ジョイスティック“✔”
2. ホームボタン“⌂”

この取扱説明書では、次の用語を使用してメニューの操作を説明しています。

短押し	ジョイスティックもしくはボタンを短く押します
長押し	ジョイスティックもしくはボタンを 1 秒間押します

メインディスプレイからポップアップメニューを開く
ホームボタン“⌂”を短押しします。

メニューの操作
- ジョイスティックを上下左右に操作すると、メニュー項目の選択および表示をします。
- “✔”を短押しすると、項目が選択されます。
- “⌂”を短押しすると、キャンセルされるか前の画面に戻ります。
- “⌂”を長押しすると、メニューが閉じます。

要　点

ナビゲーションアプリが接続されていない場合は、ナビゲーションホーム画面を表示することはできません。

Yamaha Motorcycle Connect アプリ

Yamaha Motorcycle Connect アプリは、CCU とスマートフォンを接続するための無料のアプリです。このアプリはアプリストアでダウンロードできます。

要　点

- 接続されたアプリおよびその内容は、予告なく変更される場合があり、本書の記載内容と異なる場合があります。
- Yamaha Motorcycle Connect アプリを使用するには、Yamaha Motorcycle Connect の利用規約とプライバシーポリシーに同意する必要があります。
- Yamaha Motorcycle Connect アプリは、スマートフォンまたは OS バージョンによっては使用できない場合があります。
- ナビゲーションや機能によっては、スマートフォンで GPS のアクセス許可を“常に許可”に設定する必要があります。
- スマートフォンの動作は機種により異なります。接続、Bluetooth 検出、アプリのアクセス許可などの設定に関しては、個々のスマートフォンで手順を確認してください。

Y-TRAC Rev アプリ

Yamaha Y-TRAC Rev は、ヤマハの車両を補完するために開発されたスマートフォンアプリです。ラップタイム管理、バーチャルピットボードの編集、車両性能の監視、メンテナンスの管理、走行体験を向上させる設定をするための機能を提供します。
このアプリはアプリストアでダウンロードできます。

JAUA1882

初期設定

ここではスマートフォンと CCU を接続してスマートフィーチャーを使用するための基本的な設定手順を説明します。

1. アプリケーションストアで Yamaha Motorcycle Connect アプリをダウンロードし、スマートフォンにインストールします。インストールが完了したら、Bluetooth でアプリと CCU をペアリングし接続します。

2. ナビゲーションシステムを使用するには、Garmin StreetCross アプリをダウンロードして、スマートフォンにインストールします。インストールが完了したら、Bluetooth でアプリと CCU をペアリングし接続します。

3. オーディオ、電話、ナビゲーションシステムの音声ルート案内を使用するには、Bluetooth ヘッドセットをスマートフォンにペアリングし接続します。（4-6 ページ参照）

Yamaha Motorcycle Connect アプリのペアリング

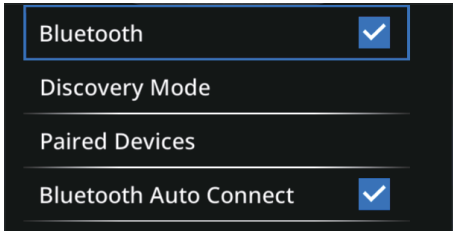
JCAN0150

注 意

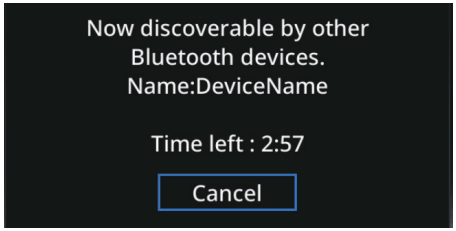
次のようなときは Bluetooth 接続が正常にできないことがあります。

- **強い電波、ノイズのある場所で操作するとき。**
- **近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。**

1. Yamaha Motorcycle Connect アプリをダウンロードして、スマートフォンにインストールします。
2. ホームボタン“⌂”を短押しして、メニューシステムから“App Applications”→“Connectivity Settings（接続設定）”→“Connection（コネクション）”→“Bluetooth”を開きます。



3. “Bluetooth”表示のとなりにチェックマークが入っていることを確認し、“Discovery Mode（デバイス検出モード）”を選択します。

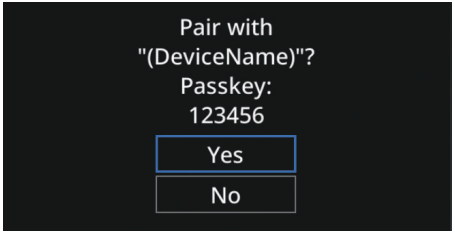


4. Yamaha Motorcycle Connect アプリを開き、ペアリング画面へ進んでください。アプリの指示に従って CCU を選択し、ペアリングを行ってください。

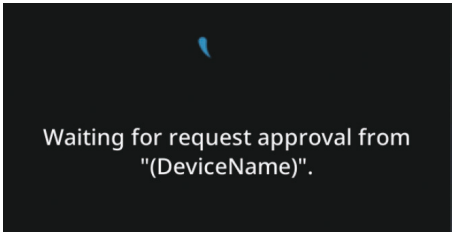
要　点

CCU をデバイス検出モードにした後は、3分以内にペアリングを行ってください。3分以内にペアリングできない場合は手順エラーになりますので、“Discovery Mode（デバイス検出モード）”に戻り、再度ペアリングを行ってください。

5. 車両のディスプレイとスマートフォンにパスキーが表示されます。パスキーが同じであることが確認できたら、ジョイスティックを操作して“Yes”をハイライト表示し、“✔”を短押しします。



6. スマートフォンにペアリングリクエストが表示されたら許可してください。



要　点

- パスキーが表示されたら 30 秒以内にペアリングを許可してください。30 秒以内にペアリングできない場合はエラーになりますので、“Discovery Mode（デバイス検出モード）”に戻り、再度ペアリングを行ってください。
- 接続されると Yamaha Motorcycle Connect アプリアイコン“App”がメインディスプレイ上部と“Paired Devices（登録済みデバイス）”リストのデバイス名の横に表示されます。

要　点

- 連絡先情報を車両と共有するためのリクエストがスマートフォンに表示されます。アクセス制限や通知の権限を拒否しても、後からスマートフォンの設定で権限を許可することができます。
- Bluetooth のペアリング履歴がスマートフォンから削除された場合、再度ペアリングするには、一度“Paired Devices（登録済みデバイス）”から対応するスマートフォンのデバイス名を削除した後に、あらためてペアリングを行ってください。
- Bluetooth のペアリング履歴が“Paired Devices（登録済みデバイス）”から削除された場合、再度ペアリングするには、一度スマートフォンのペアリング履歴から車両の CCU 名を削除した後に、あらためてペアリングを行ってください。
- Yamaha Motorcycle Connect アプリと CCU が接続されると、メニューシステムはアプリで選択されている言語で表示

されるようになります。Yamaha Motorcycle Connect アプリはスマートフォンの言語設定を利用します。スマートフォンの設定言語が CCU でサポートされていない場合の表示言語は英語になります。

- ペアリングが完了すると、自動的に Yamaha Motorcycle Connect アプリが開き、CCU に接続します。（この機能はスマートフォンや OS バージョンによって動作しない場合があります。詳細は Yamaha Motorcycle Connect アプリをご覧ください。）

ナビゲーションシステム：Garmin StreetCross

JWA21401

⚠ 警 告

- **ナビゲーションシステムを操作する場合は、必ず車両を停止してください。**
- **常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。**



この車両はスマートフォンのナビゲーションアプリを車両に接続して、画像と音声ルート案内（別途 Bluetooth ヘッドセットが必要です）するナビゲーションシステムを使用することができます。ナビゲーションシステムの使用には、Yamaha Motorcycle Connect アプリ（無償）と Garmin 社が提供する Garmin StreetCross アプリ（無償：地図更新は有償）をアプリケーションストアからスマートフォンにダウンロードし、サービスの利用登録を行ってください。
ナビゲーションシステムの操作について詳しくは、5-20 ページを参照してください。

要　点

- Garmin StreetCross アプリを使用するには、Garmin StreetCross の利用規約に同意する必要があります。
- ヤマハ発動機は、Garmin StreetCross アプリの使用に起因するいかなる損害についても責任を負いません。
- 常に Garmin StreetCross アプリが画面に表示された状態で使用してください。別のアプリ（電話、アラームなど）が画面に表示された場合、スマートフォンがスリープ状態から自動ロックされ、Garmin StreetCross アプリ機能が停止する場合があります。
- Garmin StreetCross アプリの GPS へのアクセス許可を、スマートフォンの設定で“常に許可”に設定してください。
- Garmin StreetCross アプリは、スマートフォンまたは OS バージョンによっては使用できない場合があります。
- ルート案内中は、目的地の天気情報を表示します。目的地まで 1 時間以上かかる場合は、1 時間後に通過予定のルート上の天気情報を表示します。

Garmin StreetCross アプリのペアリング

JCAN0150

注 意

次のようなときは Bluetooth 接続が正常にできないことがあります。

- **強い電波、ノイズのある場所で操作するとき。**
- **近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。**

1. Garmin StreetCross アプリをダウンロードして、スマートフォンにインストールします。
2. Garmin StreetCross アプリを開き、“ ” をタップしてください。アプリの指示に従って CCU を選択し、接続を行ってください。



要 点

接続が完了すると、メインディスプレイ上部にナビゲーション接続アイコン“ ”が点灯し、“登録済みデバイス”リストのデバイス名の横に“ ”が表示されます。(5-27 ページ参照)

Bluetooth ヘッドセットのペアリング

ヘッドセットメーカーの指示に従ってスマートフォンとのペアリングおよび接続を行ってください。Yamaha Motorcycle Connect アプリがヘッドセットの接続を検知すると、メインディスプレイ上部にヘッドセット接続アイコン“ ”が表示されます。

要 点

ヘッドセットの音声機能を使用すると、スマートフォンと CCU の Bluetooth 接続が不安定になる場合があります。詳細は Yamaha Motorcycle Connect アプリをご覧ください。

JAUA1890

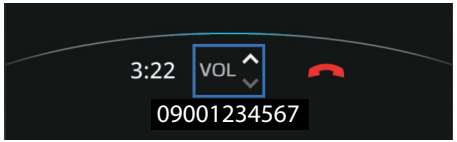
電話

この車両は、スマートフォンと Bluetooth ヘッドセットを利用して電話機能を使用することができます。この機能を使用するには、スマートフォンを CCU と Bluetooth ヘッドセットのそれぞれに接続してください。(4-3 ページ参照)

電話を受ける



接続されたスマートフォンに電話がかかってくると、接続されたヘッドセットから着信音が鳴り、ディスプレイ下部に電話機能(ポップアップ)が表示されます。緑色の通話アイコンを選択して“ ”を短押しすると、通話を開始します。通話中は“ ”アイコンが表示されます。



音量アイコンを選択してジョイスティックを上下に操作して通話音量を調整します。通話終了アイコンを選択して“✔”を短押しすると、通話が終了します。

要　点

- ハンドルスイッチを使用して通話音量を変更できないスマートフォンもあります。その場合は通話中の画面の音量調節アイコンがグレーに表示されます。
- 通話中にかかってきた別の電話を受け付けると、最初の通話は保留になります。
- スマートフォンによっては、通話中にかかってきた別の電話を拒否すると、表示のみが通話者ではなく別の電話の発信者になってしまう場合があります。
- スマートフォンによっては、通話終了アイコンがグレーに表示されたり、ジョイスティック／“✔”を操作して着信を拒否しても正しく機能せずに通話になってしまう場合があります。その場合は、スマートフォンを直接操作してください。

電話をかける

電話をかける場合は、スマートフォンを操作して発信してください。電話をかけるとメニューシステム内の“ Phone”にある通話画面が表示可能になり、“”アイコンがメインディスプレイ上部に表示されます。（5-39 ページ、5-17 ページ参照）通話音声は、接続された Bluetooth ヘッドセットから再生されます。

JWA21420

⚠警　告

- **走行中はスマートフォンを操作しないでください。**
- **走行中はハンドルから手を離さないでください。**
- **常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。**
- **周辺の状況へ注意を払い、安全を確保するために音量レベルを十分にさげてください。**

JAU99213

接続エラーが発生したときは

スマートフォンや Yamaha Motorcycle Connect アプリおよび Garmin StreetCross アプリと CCU の接続にエラーが発生した場合、以下の画面が表示されます。



“詳細”を選択し、画面の指示に従って接続を確認してください。



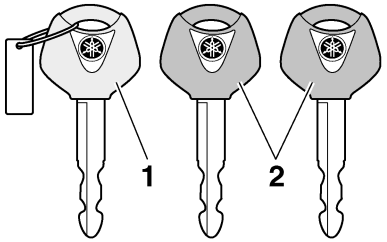
エラーが解消しない場合は、次のことを試してください。

1. 車両の電源をオフにします。20 秒後、再度車両の電源をオンにしてください。
2. スマートフォンの Bluetooth をオフにします。その後、再度車両の電源をオンにしてください。
3. スマートフォンと CCU の両方から Bluetooth のペアリング履歴を削除して、再度ペアリングを行ってください。
4. 関連するスマートフォンのアプリをすべて再起動してください。

JAU33073

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが 1 本とマスコット部が黒いサブキーが 2 本あります。 メインキーはサブキーの ID を登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注 意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- **メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーの ID を登録することができなくなります。また、3 本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。**
- **キーを水に浸けないでください。**
- **キーを高温になる場所に置かないでください。**
- **キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。**
- **キーに電波を発信するものを近づけないでください。**
- **キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。**
- **キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。**
- **キーを分解しないでください。**
- **複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。**
- **金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。**

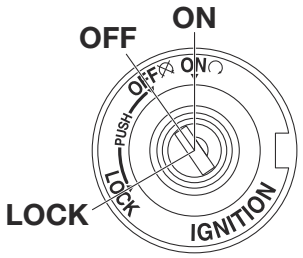
JAU26895

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録された ID のキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 5-7 ページを参照してください。）

JAU10462

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

⚠ 警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU90040

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まっても車両の電源をオフにするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

JAU46011

OFF

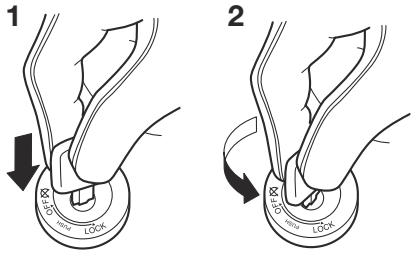
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU73803

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



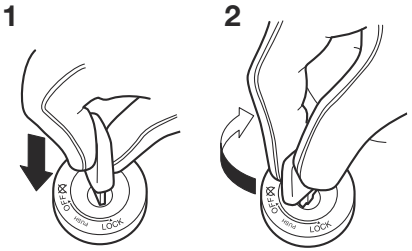
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要　点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



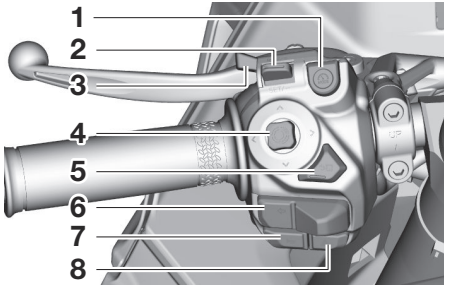
1. 押す
2. 回す

キーを押し込み、そのまま OFF まで回します。

JAU6605B

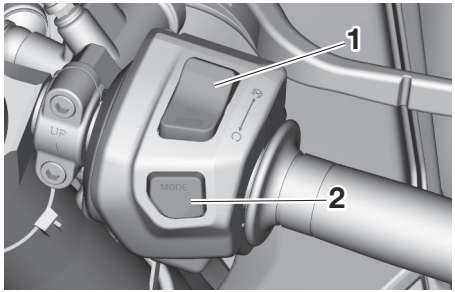
ハンドルスイッチ

<左>



1. クルーズコントロール／YVSL ボタン “MODE”
2. クルーズコントロール／YVSL 設定スイッチ “RES/+” / “SET/–”
3. ヘッドライト上下切り替え/パッシングライトスイッチ “≡O/≡O”
4. ジョイスティック “✔”
5. ホームボタン “⌂”
6. 方向指示器スイッチ “⇦/⇨”
7. ホーンスイッチ “”
8. ハザードスイッチ “⚠”

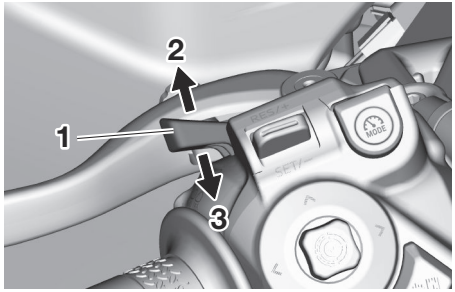
<右>



1. エンジンオペレーションスイッチ “⊠/⌒/㋭”
2. YRC モードボタン “MODE”

JAUA2611

ヘッドライト上下切り替え/パッシングライトスイッチ “≡O/≡O”



1. ヘッドライト上下切り替え/パッシングライトスイッチ “≡O/≡O”
2. A 方向
3. B 方向

このスイッチを外側（A 方向）に押すとハイビームになります。ロービームに戻すには、このスイッチを内側（B 方向）に押します。
ヘッドライトがロービームに設定されているときに、スイッチを内側（B 方向）に押すと、パッシングします。
テーマが Track の場合：このスイッチは、ラップタイマーの操作にも使用されます。ヘッドライトがロービームで、スイッチを内側（B 方向）に押すと、ラップタイマーが作動し、ラップがカウントされます。この場合、ハイビームは点滅しません。

JAUA1741

方向指示器スイッチ “⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。軽く押すと強く押すの 2 種類の使い方があります。
軽く押す：進路変更する側にスイッチを軽く押します。進路変更する側の方向指示灯が、3 回点滅します。
強く押す：進路変更する側にスイッチを強く押します。進路変更する側の方向指示灯が、次の条件がすべて満たされるまで点滅し続けます。

- 約 150 m 走行する。
- 15 秒以上経過する。
- 車速が 5 km/h 以上で走行する。

JCA28520

注 意

指定の時間または走行距離以上走行しても方向指示器が自動的にオフにならない場合があります。

方向指示器を手動でキャンセルするには、同じ方向にもう一度スイッチを押します。

JAU66030

ホーンスイッチ “⊂⊃”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAUA9170

エンジンオペレーションスイッチ “⊠/⌒/㋭”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを “⌒” に合わせてから、スイッチの “㋭” 側を押してください。エンジンを始動させる前に、7-1 ページの始動手順を参照してください。
転倒した場合など、緊急時にエンジンを停止するには、このスイッチを “⊠” にしてくだ

さい。通常は“ ”にしておきます。“ ”にすると、エンジンは始動できません。

要　点

本書では、スイッチの 3 つの位置を、個別のスイッチとして参照する場合があります。
：エンジンストップスイッチ
：ランスイッチ
：スタータースイッチ

JAU91671

ハザードスイッチ“ ”

車両の電源をオンにした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点滅させます。（全ての方向指示器が点滅します。）
ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。
ハザードランプは、車両の電源をオンにした状態のみでオンとオフを切り替えることができます。車両の電源をオフ、または LOCK にしてもハザードランプは点滅し続けます。
ハザードランプを消灯させるには、車両の電源をオンにした状態で、ハザードスイッチを再度操作してください。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU94151

クルーズコントロール/YVSL スイッチ

クルーズコントロールシステムの詳細については、3-6 ページを参照してください。
YVSL の詳細については、3-8 ページを参照してください。

JAUA1941

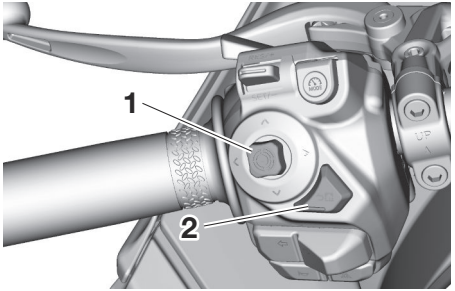
YRC モードボタン“MODE”

YRC モードを切り替えるときに、このボタンを短押しします。
Theme 1～3：このボタンを長押しすると、ディスプレイの下部に YRC モードのポップアップが開きます。
YRC モードの詳細については、5-13 ページと 5-31 ページを参照してください。

JAUA1923

ジョイスティック“ ”とホームボタン“ ”

ディスプレイやメニューシステムを操作するときに使用します。
ディスプレイやメニューシステムの詳細については、4-1 ページ、5-12 ページ、5-21 ページを参照してください。



1. ジョイスティック“ ”
2. ホームボタン“ ”

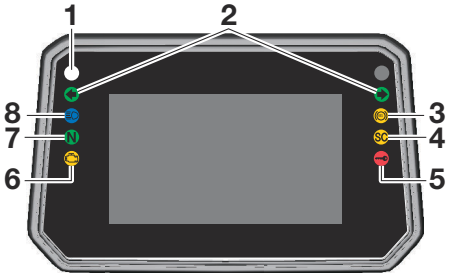
JAUA5932

警告灯と表示灯

JCA29090

注 意

警告灯や表示灯が、何らかの問題または異常を知らせている場合は、ただちに車両の運転を停止してください。その後、ヤマハ販売店で点検を受けてください。



1. シフトタイミングインジケーターランプ “○”
2. 方向指示器表示灯 “◀” ／ “▶”
3. ABS 警告灯 “ABS”
4. スタビリティコントロール表示灯 “SC”
5. イモビライザーシステム表示灯 “🔑”
6. エンジン警告灯 “🔧”
7. ニュートラルランプ “N”
8. ハイビーム表示灯 “≡D”

JAUA1910

方向指示器表示灯 “◀” ／ “▶”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU88300

ニュートラルランプ “N”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU88310

ハイビーム表示灯 “≡D”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU88331

エンジン警告灯 “🔧”

エンジン異常が発生したとき、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

要 点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA26820

注 意

エンジン警告灯が点滅したときは、低速で走行してください。マフラーの中の触媒装置が損傷する可能性があります。

要 点

このエンジンは自己診断機能により繊細に監視され、排気ガス制御システムの劣化や故障を検知します。そのため、改造、整備不良や不適切な車両の使用により、エンジン警告灯が点灯する場合があります。故障以外の原因による警告灯の点灯を避けるために、以下のことを守ってください。

- エンジンコントロールユニットのソフトウェアを書き換えないでください。
- エンジンコントロールユニットに影響を与えるような電装アクセサリーを使用しないでください。
- 標準仕様以外のスパークプラグ、フューエルインジェクターを使用したり、サスペンション、排気系などの社外アクセサリーを使用したりしないでください。
- ドライブチェーン、スプロケット、ホイール、タイヤなどの仕様を変更しないでください。
- O2 センサー、エアインダクションシステム、触媒や EXUP などの排気系部品を外したり、改造したりしないでください。
- ドライブチェーンを正しくメンテナンスしてください。
- タイヤの空気圧を正しくメンテナンスし

てください。
- ブレーキペダルの高さを正しくメンテナンスして、リヤブレーキを引きずらないようにしてください。
- スロットルグリップの開閉を過度に繰り返す、バーンアウト、ウィーリーや、半クラッチの多用などの行為はしないでください。

JAUA6140

ABS 警告灯 “ABS”

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、走行すると消灯します。走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。

要　点

警告灯が点灯しなかったり、走行中に警告灯が点灯する場合は直ちにヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

JWA22910

⚠警 告

10 km/h 以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき:
- **急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。**
- **直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。**

JAU99711

シフトタイミングインジケーターランプ “○”

シフトアップのタイミングをお知らせします。ランプが点灯または消灯するエンジン回転数や点灯に関する設定を、ポップアップメニューで調整することができます。（詳しくは 5-38 ページを参照してください。）

要　点

- シフトタイミングインジケーターランプは、ギヤがニュートラルまたは 6 速の場合は作動しません。
- 車両の電源をオンにしたとき、インジケーターランプが数秒間点灯し、その後消灯します。インジケーターランプが全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU88350

イモビライザーシステム表示灯 “🔑”

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。車両の電源をオフにすると、イモビライザーシステムが機能し、約 30 秒間経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要　点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーキーの認証エラー

イモビライザーシステム表示灯が、ゆっくり 5 回、すばやく 2 回の点滅を繰り返すときは、キーの ID の認証が妨げられた可能性があります。この場合は、次のことを試してみてください。

1. 他のイモビライザーキーがメインスイッチの近くにないことを確認します。
2. メインキーでエンジンを始動します。
3. エンジンが始動したら、エンジンを止め、サブキーで始動できるか確認します。
4. エンジンの始動ができないキーがあった場合には、車と 3 本全てのキーを持っ

て、ヤマハ販売店でキーの再登録を受けてください。

JAUA1782

スタビリティコントロール表示灯 “SC”

TCS（トラクションコントロールシステム）がオフに設定されている場合、この表示灯が点灯します。

走行中に TCS（トラクションコントロールシステム）、SCS（スライドコントロールシステム）、LIF（リフトコントロールシステム）、または BSR（バックスリップレギュレーター）が作動すると、この表示灯が点滅します。

要　点

車両の電源をオンにすると、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA28540

注 意

IMU の初期化を妨げる可能性があるため、車両の電源をオンにするときは、車両を動かしたり振動を与えたりしないでください。IMU の初期化不良が発生した場合、IMU が正常に初期化されるまでトラクションコントロールシステムは作動せず、スタビリティコントロール表示灯 “SC” が点灯します。

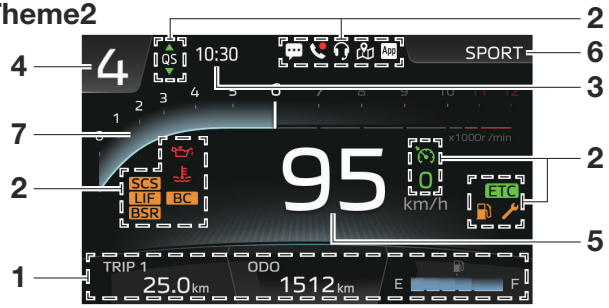
JAUA1864

ディスプレイ

Theme1



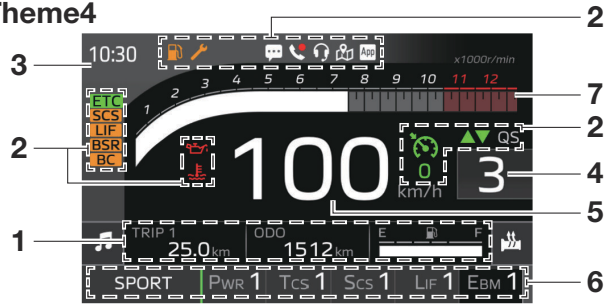
Theme2



Theme3

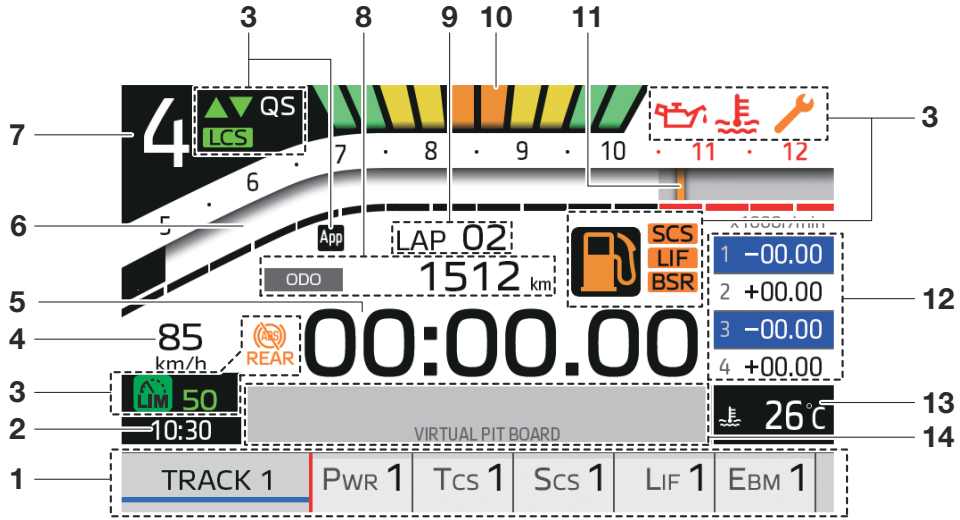


Theme4



1. インフォメーションディスプレイ
2. 警告灯と表示灯
3. 時計
4. ギヤポジションディスプレイ
5. スピードメーター
6. YRC モードディスプレイ
7. タコメーター

TRACK



1. YRC モードディスプレイ
2. 時計
3. 警告灯と表示灯
4. スピードメーター
5. ラップタイムディスプレイ
6. タコメーター
7. ギヤポジションディスプレイ
8. インフォメーションディスプレイ
9. ラップカウンター
10. シフトタイミングインジケーター
11. 最高回転数ホールドインジケーター
12. 区間タイムディスプレイ
13. 水温ディスプレイ
14. バーチャルピットボード

5

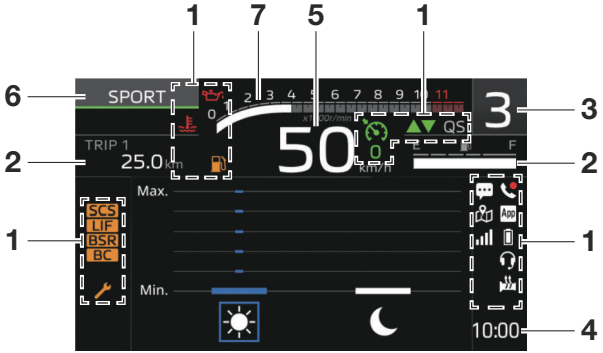
メニューシステムまたはナビゲーション機能の使用中

メニューシステムまたはナビゲーション機能を開いている場合、ディスプレイの情報は図のように表示されます。

Theme1, 2, 3



Theme4, TRACK



1. 警告灯と表示灯
2. インフォメーションディスプレイ
3. ギヤポジションディスプレイ
4. 時計
5. スピードメーター
6. YRC モードディスプレイ
7. タコメーター

JAUA5208

要　点

- ディスプレイ画面の明るさは、メニューシステムの設定で調整できます。（5-36 ページ参照）
- ディスプレイ画面が高温になると、損傷を避けるために自動的に暗くなり、明るさ調整もできなくなります。
- このモデルは TFT 液晶により、様々な光源下での良好なコントラストおよび見やすさを実現しています。場合によっては少し見えにくい部分が出ることもあります。
- テーマが Track の場合、オーディオプレーヤー、電話、ヘッドセット関連の機能は、操作できません。
- 表示単位は、キロメートルとマイル、°C（摂氏）と°F（華氏）を切り替えることができます。（5-37 ページ参照）
- ナビゲーションシステムの表示単位は、Garmin StreetCross アプリを使用して個別に変更できます。
- 走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

ディスプレイシステムの操作

ディスプレイはジョイスティック／“✔”とホームボタン“⌂”で操作できます。（5-5 ページ参照）それぞれの操作には、さまざまな状況に応じた機能があります。詳細については、以下をご確認ください。

ジョイスティックを上下左右に操作

メインディスプレイの場合：インフォメーションディスプレイと YRC モードディスプレイ（Theme4、Track）の項目をハイライト表示し、調整をします。

ナビゲーションディスプレイの場合 : 地図のズーム調整をします。

ターンバイターン表示（ポップアップ）の場合：表示情報を左右に調整をします。

メニューシステム表示の場合 : さまざまなメニュー項目をハイライト表示し、調整をします。

“✔”を短押し

メインディスプレイの場合：インフォメーションディスプレイと YRC モードディスプレイ（Theme4）の項目をハイライト表示し、選択します。

ナビゲーションディスプレイの場合：“Navigation”メニュー画面を直接開きます。

メニューシステム表示の場合 : ハイライト表示されたメニュー項目を選択します。

“✔”を長押し

ハイライト表示されたインフォメーションディスプレイの項目が点滅している場合 : 項目をリセットします。

スマートフォンが音楽プレーヤーアプリを接続している場合 : 音楽を再生／一時停止します。（Track の場合を除く）

ホームボタン“⌂”を短押し

メインディスプレイまたはナビゲーションディスプレイの場合 : ポップアップメニューを開きます。

メニューシステム表示の場合 : キャンセルまたは前の画面に戻ります。

ホームボタン“⌂”を長押し

メインディスプレイの場合 : ナビゲーションディスプレイに切り替わります。（Track の場合を除く）

ナビゲーションディスプレイの場合 : メインディスプレイに切り替わります。

メニューシステム表示の場合 : 直前に開いて

いたメインディスプレイまたはナビゲーションディスプレイに戻ります。

時計

この時計は 12 時間表示です。時刻はスマートフォンを接続すると自動的に更新されますが、“⚙ Settings” → “Clock” で手動設定することもできます。(5-36 ページ参照)

スピードメーター

車両の速度を示します。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

JCA10032

注 意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。
レッドゾーン: 10500 r/min 以上

ギヤポジションディスプレイ

選択しているギヤポジションが表示されます。この車は 6 段変速です。ギヤがニュートラルのときは、ニュートラルランプ “N” が点灯し、ギヤポジションディスプレイに “N” が表示されます。

YRC モードディスプレイ

YRC モードディスプレイは、“SPORT”、“STREET”、“RAIN”、“CUSTOM 1”、“CUSTOM 2” のうち、どの YRC モードが選択されているか表示されます。
YRC モードボタン “MODE” で選択し、メニューシステムでカスタマイズできます。(5-31 ページ参照)

要 点

- “CUSTOM 1” と “CUSTOM 2” は Yamaha Motorcycle Connect アプリから名前をカスタマイズすることができます。
- テーマが Track の場合、YRC モードは、TRACK 1～4 が選択できます。

Theme4、Track :

このテーマでは、各 YRC モードの現在の “PWR”、“TCS”、“SCS”、“LIF”、“EBM” の設定が表示されます。YRC モードボタン “MODE” を使用するほか、ジョイスティックを上下に操作することでインフォメーションディスプレイと YRC モードディスプレイを切り替えることができます。ハイライト表示されているときに “✔” を短押しして、YRC モードディスプレイを選択します。ジョイスティックを左右に操作して項目を移動します。ジョイスティックを上下に操作して、ハイライト表示された YRC モードを切り替えたり、項目の設定を変更します。

要 点

- テーマが Track の場合、ジョイスティックを操作するだけで YRC モードディスプレイを操作できます。
- テーマが Track の場合、YRC 項目 (“PWR” および “EBM” を除く) がハイライトされている状態で、“✔” を長押しすると、その項目を無効にできます。項目が無効になっている間、設定レベルは “0” と表示されます。

Theme1-3 :



YRC モードボタン “MODE” を長押しする

と、画面下部に YRC モード（ポップアップ）が表示されます。YRC モード（ポップアップ）が開いている間に、YRC モードボタン“MODE”を短押しして項目を切り替え、ジョイスティックを使用して個々の項目を調整します。

要　点

- 選択した YRC モードがカスタマイズ可能な場合、ジョイスティックを使用して“PWR”、“TCS”、“SCS”、“LIF”をハイライト表示された項目を調整できます。
- “EBM”は、どの YRC モードでも調整できます。

YRC モードの詳細は、3-1 ページを参照してください。

インフォメーションディスプレイ

インフォメーションディスプレイには、次の項目から 3 つ表示するように設定できます。

- オドメーター“ODO”
- トリップメーター“TRIP 1 / TRIP 2”
- フューエルトリップメーター“TRIP F”
- 瞬間燃費“INST FUEL”
- 平均燃費“AVG FUEL”
- 航続可能距離“RANGE”
- 水温計“COOLANT”
- 気温計“AIR”
- 走行時間“TRIP TIME”
- 燃料計

Theme1-3：

- ジョイスティックを左右に操作して項目を移動します。ハイライト表示された項目でジョイスティックを上下に操作すると、表示が切り替わります。ハイライト表示された項目が点滅している場合は、“✔”を長押しするとリセットされます。
- メニューシステムの“Ⓡ Vehicle Info”でも設定ができます。

Theme4：

ジョイスティックを上下に操作してインフォメーションディスプレイと YRC モードディスプレイを切り替えます。インフォメーションディスプレイがハイライト表示された“✔”を短押しして選択します。ジョイスティックを左右に操作して項目を移動します。ハイライト表示された項目でジョイスティックを上下に操作すると、表示が切り替わります。ハイライト表示された項目が点滅している場合は、“✔”を長押しするとリセットされます。

Track：

インフォメーションディスプレイには、次の項目から 1 つ表示するように設定できます。

- 最速ラップタイム“FASTEST”
- 参考ラップタイム“REFER.”
- 最新ラップタイム“LATEST”
- オドメーター“ODO”
- 平均燃費“AVG FUEL”
- 気温“AIR”

要　点

テーマが Track の場合、フューエルトリップメーター“TRIP F”は、燃料タンクの予備レベルに達しない限り表示されません。予備レベルに達すると、現在の表示項目の代わりに表示され、給油すると消えます。

メニューシステムから“Ⓡ Vehicle Info”を選択すると、インフォメーションディスプレイがハイライト表示されます。ジョイスティックを上下に操作すると、表示が切り替わります。

ハイライト表示された項目が点滅している場合は、“✔”を長押しするとリセットされます。

要　点

- メニューシステムから“⚙ Settings”→“Information / Reset”を開くと、リセット可能な項目を個別に表示し、リセットすることができます。（5-29 ページ参照）
- ナビゲーションディスプレイの場合、メニューシステムから“Ⓜ Vehicle Info”を開き、2 つの項目をハイライト表示することができます。

オドメーター“ODO”

車両の総走行距離が表示されます。

要　点

オドメーターは最大値 999999 で固定され、リセットできません。

トリップメーター“TRIP 1 / TRIP 2”

“TRIP 1”と“TRIP 2”は、ゼロにリセットされてからの走行距離が表示されます。“TRIP 1”と“TRIP 2”は、9999.9 に到達するとゼロにリセットされ、カウントを続けます。

フューエルトリップメーター“TRIP F”

燃料タンクの予備レベルに達すると、“TRIP F”が表示され、その時点からの走行距離の記録を開始します。フューエルトリップメーターは、給油後ある程度の距離を走行すると自動的にリセットされます。

要　点

フューエルトリップメーターが無効な場合は“--.-”と表示されます。

瞬間燃費“INST FUEL”

表示単位がキロメートルの場合、瞬間燃費は“km/L”または“L/100km”に設定できます。（5-37 ページ参照）

表示単位がマイルの場合、瞬間燃費は“MPG”で表示されます。

平均燃費“AVG FUEL”

表示単位がキロメートルの場合、平均燃費は“km/L”または“L/100km”に設定できます。（5-37 ページ参照）

表示単位がマイルの場合、平均燃費は“MPG”で表示されます。

航続可能距離“RANGE”

現在の走行状況と燃料残量を考慮し、走行可能距離の予測値を表示します。

水温計“COOLANT”

冷却水の温度を、-30 °C から 130 °C まで 1 °C 刻みで表示されます。

要　点

- 冷却水の温度が -30 °C 未満の場合、“-30”と表示されます。
- 冷却水の温度が上限に達した場合、“Hi”と表示されます。

気温計“AIR”

気温を、-9 °C から 50 °C まで 1 °C 刻みで表示されます。表示される温度は走行状態によって車両温度の影響を受けるため、実際の外気温と異なる場合があります。

要　点

- 計測された気温が -9 °C 未満の場合、“---”と表示されます。
- 計測された気温が 50 °C 以上の場合、“---”と表示されます。

走行時間“TRIP TIME”

エンジンの稼働時間が表示されます。

燃料計

フューエルタンク内の燃料残量を示します。燃料が減るにつれて、表示セグメントが“F”（満）から“E”（空）に向けて減っていきます。最後のセグメントが点滅を始めたときは、速やかに給油してください。

JCAE0121

注 意

燃料を完全に使い切らないでください。触媒が損傷するおそれがあります。

最速ラップタイム“FASTEST”

ラップタイムの計測が開始されてから記録された最速ラップタイムを示します。ラップが記録されていない場合は、00:00.00と表示されます。

参考ラップタイム“REFER.”

“Auto Lap Timer”が有効になっている場合、この項目は“FASTEST”から置き換わります。Y-TRAC Rev アプリで設定した参考ラップタイムを表示します。ラップが完了するたびに、“GAP”と参考ラップタイムとのタイム差（+/-時間）が一時的に表示されます。

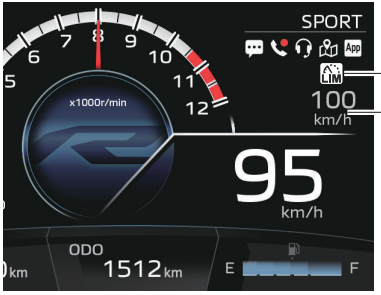
最新ラップタイム“LATEST”

記録された最新のラップタイムを示します。ラップが記録されていない場合は、00:00.00と表示されます。

クルーズコントロール/YVSL 画面



1. クルーズコントロールアイコン
2. 速度設定アイコン



1. YVSL アイコン
2. 速度設定アイコン

要 点

クルーズコントロールシステムと YVSL システムの詳細については、3-6 ページと 3-8 ページを参照してください。

クルーズコントロールアイコン“ / / ”

クルーズコントロールシステムがスタンバイ状態になると点灯し、作動中は緑色に変わり、異常がある場合はオレンジ色に点灯します。

YVSL アイコン“ / / ”

YVSL システムがスタンバイ状態になると点灯し、作動中は緑色に変わり、異常がある場合はオレンジ色に点灯します。

速度設定アイコン“ / ”

クルーズコントロールシステムまたは YVSL システムの設定速度を表示します。

100 km/h：速度が設定され、システムはスタンバイ状態です。

100 km/h：速度が設定され、システムが作動中です。

---km/h：速度が設定されていません。

警告灯と表示灯



低燃料表示灯“⛽”
フューエルタンク内の燃料残量が約 2.5 L 以下になると点灯します。

水温警告灯“🌡”
エンジン冷却水温が高温になると、点灯します。車両を停止させてエンジンをオフにし、エンジンを冷やしてください。

JCA10022

注 意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けないでください。

油圧警告灯“🛢”
エンジン運転中に油圧が低下すると、点灯します。車両の電源をオンにしたときは、エンジン油圧が掛かっていないため、エンジンを始動するまで点灯します。

要 点

異常が検知されると、繰り返し点滅します。

JCA26410

注 意

油圧が低下している場合、エンジンの使用を続けないでください。

補助システム警告灯“🔧”
エンジン以外のシステムに異常が検知されると、点灯します。

クイックシフターアイコン“QS”
クイックシフターの状況がアイコンと△/▽で表示されます。
△/▽がすべて消灯：クイックシフターが設定されていません。
▲：シフトアップは可能ですが、クイックシフターを使用できません。
▼：シフトダウンは可能ですが、クイックシフターを使用できません。
▲：クイックシフターを使用したシフトアップが可能です。
▼：クイックシフターを使用したシフトダウンが可能です。

要 点

- クイックシフターのシフトアップ／ダウン機能は、ポップアップメニューから、それぞれ個別に設定できます。（5-31 ページ参照）
- クイックシフターの詳細は、3-3 ページを参照してください。

ネットワーク接続アイコン“📶”（Track の場合を除く）
接続されているスマートフォンのネットワーク接続状態を示します。
アイコンなし：スマートフォンが接続されていません。
📶：スマートフォンは接続されていますが、ネットワークに接続されていません。
📶：スマートフォンが接続されており、ネットワークに接続されています。アイコンのセグメントは電波の強度を示します。

要 点

スマートフォンによっては、ネットワークに接続できていても電波の強度が表示されな

い場合があります。

スマートフォンのバッテリー残量レベルアイコン“ ”（Track の場合を除く）
接続されているスマートフォンのバッテリー残量レベルを示します。
アイコンなし：スマートフォンが接続されていません。
：中央のバーが上下に動き、バッテリーの残量を示します。
：スマートフォンは充電中です。

要　点

アイコンのバッテリー残量表示は接続しているスマートフォンのバッテリー残量表示と一致していない場合があります。

ヘッドセット接続アイコン“ ”（Track の場合を除く）
Bluetooth ヘッドセットが車両に接続されると表示されます。

要　点

スマートフォンによっては、この表示は着信中に消灯する場合があります。

Yamaha Motorcycle Connect アプリアイコン“ ”
Yamaha Motorcycle Connect アプリが車両に正常に接続されると表示されます。
：接続しているスマートフォンが高温になるとアイコンが黄色に変わります。

要　点

スマートフォンによっては、高温状態が解消してもアイコンが黄色のままになる場合があります。

ナビゲーション接続アイコン“ ”（Track の場合を除く）
Garmin StreetCross アプリが接続されると表示されます。

電話アイコン“ / ”（Track の場合を除く）
通話中は緑色、不在着信があった場合は赤色のアイコンが表示されます。メニューシステムの“ Applications”→“電話”から直近の発着信履歴を開くと、不在着信のアイコンは消灯します。

通知アイコン“ ”（Track の場合を除く）
接続されているスマートフォンが SNS やメールなどの通知を受信したときに表示されます。車両の電源をオフにするまでアイコンは点灯したままになります。メニューシステムの“ Applications”→“通知”から通知を確認すると、アイコンは消灯します。

要　点

- この機能は、スマートフォンの Yamaha Motorcycle Connect アプリが CCU に接続されている場合にのみ使用できます。
- 通知を表示するには、スマートフォンで Yamaha Motorcycle Connect アプリが通知にアクセスすることを許可する設定が必要になります。

グリップウォーマーアイコン“ ”（装備している場合（Track の場合を除く））
グリップウォーマーは、エンジンがかかっているときにのみ使用できます。3 つの温度設定があり、それぞれが 10 段階の温度レベル間で調節できます。（5-28 ページ参照）
アイコンには、現在の設定状況が表示されます。
：切
：低
：中

: 高

JCA17932

注 意

- **グリップウォーマーを使用するときは、必ずグローブを着用してください。**
- **暖かい日は、グリップウォーマーを使用しないでください。**
- **ハンドルバーグリップまたはスロットルグリップが摩耗したり破損したりした場合は、グリップウォーマーの使用を止め、グリップを交換してください。**

ETC アイコン “ETC”（装備している場合（Track の場合を除く））
ETC 車載器を接続すると、車載器の状態が表示されます。
車載器が利用できる時は緑色、利用できない時は赤色で “ETC” が表示されます。

BC 表示灯 “BC”
BC（ブレーキコントロール）が無効になっている場合、点灯します。

JCA28551

注 意

IMU の初期化を妨げる可能性があるため、車両の電源をオンにするときは、車両を動かしたり振動を与えたりしないでください。IMU の初期化不良が発生した場合、IMU が正常に初期化されるまでブレーキコントロールシステムは作動せず、BC 表示灯 “BC” が点灯します。

SCS 表示灯 “SCS”
SCS（スライドコントロールシステム）が無効になっている場合、点灯します。

LIF 表示灯 “LIF”
LIF（リフトコントロールシステム）が無効になっている場合、点灯します。

BSR 表示灯 “BSR”
BSR（バックスリップレギュレーター）が無効になっている場合、点灯します。

REAR ABS OFF 表示灯 “REAR”
リヤブレーキの ABS が無効になっている場合、点灯します。（5-35 ページ参照）

要 点

リヤブレーキの ABS が無効になると、BC（ブレーキコントロールシステム）も無効になります。ただし、REAR ABS OFF 表示灯 “REAR” のみが表示され、BC 表示灯 “BC” は表示されません。

水温ディスプレイ（Track）
冷却水の温度を、-30 °C から 130 °C まで 1 °C 刻みで表示されます。

要 点

- 冷却水の温度が -30 °C 未満の場合、“-30” と表示されます。
- 冷却水の温度が上限に達した場合、“Hi” と表示されます。

ラップタイマー（Track）
テーマを Track に切り替えて、メニューシステムから “Timer Ready” を選択します。ラップタイムディスプレイが表示され、ラップタイムの “:” と “.” が点滅し、スタンバイ状態であることを示します。
ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ “≡D/≡D” を押し下げると計測が開始されます。
ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ “≡D/≡D” を押すたびに、ラップタイムが記録され、ラップカウントが 1 増加します。
計測を停止するには、メニューシステムから

“ Timer Stop”を選択します。
計測を再開するには、メニューシステムから“ Timer Ready”を選択し、スタンバイ状態にします。再度、ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチを押し下げると、停止したラップの計測を再開します。
ラップタイムをリセットし、記録されたすべてのラップタイムとその他のラップデータを削除するには、メニューシステムから、“ TRACK Settings” → “Lap Reset”を選択します。

要　点

テーマが Track の場合、ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ“ / ”を押しても、ヘッドライトはパッシングしません。

ラップカウンター (Track)
ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ“ / ”を押し下げた回数をカウントし、リセットするまで最大 40 回までカウントします。

最高回転数ホールドインジケーター (Track)
タコメーター内に瞬間的に表示される小さなバーは、直近のエンジン回転数の最高点を示します。

シフトタイミングインジケーター (Track)
エンジン回転数の上昇に伴って順次点灯し、色が変化するシーケンシャルの表示です。このインジケーターはシフトインジケーターランプと同じ設定を使用し、メニューシステムの“ Settings” → “Shift Indicator”で調整できます。(5-38 ページ参照)

LCS 表示灯 “ LCS / LCS ” (Track)
LCS（ローンチコントロールシステム）の現在の状態を示します。
アイコンなし：LCS はオフになっています。システムは使用できません。
LCS ：LCS はスタンバイ状態です。メニューまたは YRC モードボタン“MODE”で作動できます。
LCS : LCS は作動中です。車両のエンジン回転数が制限され、発進する準備が整っています。

区間タイムディスプレイ (Track)
Y-TRAC Rev アプリを使用している場合、区間タイム情報が表示されます。

バーチャルピットボード (Track)
Y-TRAC Rev アプリを介して、車両に送られたメッセージが表示されます。

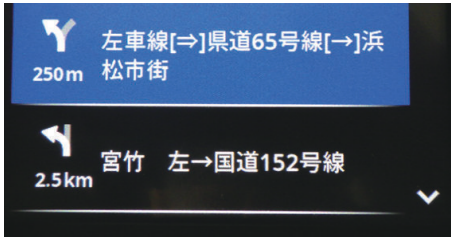
ナビゲーションディスプレイ
ナビゲーションには“標準表示”、“ターンバイターン表示”、“ターンリスト表示”の３種類のルート案内表示があります。

標準表示



ジョイスティックを上下に操作すると、画面が拡大縮小します。

ターンリスト表示



ジョイスティックを上下に操作すると、案内リストが上下します。

ターンバイターン表示



ジョイスティックを左右に操作するとディスプレイ下部に表示される情報が、目的地までの残りの距離／到着までの予想時間／現在地の間で順番に表示されます。

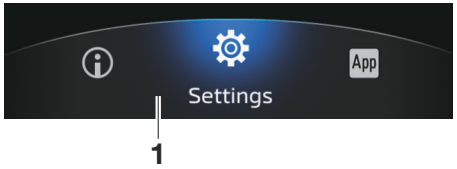
“✔”を短押ししてメニューシステムから“App Applications”→“ナビゲーション”→“表示切替”を開くと、ルート案内表示を変更することができます。(5-22 ページ参照)

要　点

- Bluetooth の通信が不安定になると、ナビゲーションディスプレイが自動的にターンバイターン表示に切り替わったり、地図を読み込みの中の画面になったりします。通信が回復すると元のナビゲーションディスプレイに戻ります。
- スマートフォンによってはルート案内中に通話機能を使用すると、ナビゲーションディスプレイに戻った時に接続エラー画面が表示される場合があります。その場合は、“接続エラーが発生したときは”を確認してください。(4-7 ページ参照)
- 接続しているスマートフォンの AI アシスタント機能が無効になっている時にヘッドセットを接続すると、ナビゲーションのホーム画面に接続エラー画面が表示される場合があります。(iOS のみ)

JAUA5446

メニューシステム



1. ポップアップメニュー

この車両のメニューシステムは、左側のハンドルにあるジョイスティックとホームボタンで操作できます。(5-5 ページ参照)
メインディスプレイ下部にポップアップメニューが開きます。メニュー項目はポップアップメニューにアイコンで表示されます。

メインディスプレイからポップアップメニューを開く

ホームボタン“⌂”を短押しします。

メニューの操作

- ジョイスティックを上下左右に操作すると、メニュー項目の選択および表示をします。
- “✔”を短押しすると、項目が選択されます。
- “⌂”を短押しすると、キャンセルされる

か前の画面に戻ります。

- “ ”を長押しすると、メニューが閉じます。

要　点

メニューアイコンに“ ”／“ ”が表示されたときは、ジョイスティックを矢印の方向に操作すると、選択した機能の表示ができます。

ポップアップメニューには、次の主な機能があります。

Theme	ディスプレイのビジュアルテーマを選択します。(5-22 ページ参照)
Applications	スマートフォン連携の機能を表示します。(5-22 ページ参照)
Grip Warmer (装備している場合)	グリップウォーマーの温度を調節します。(5-28 ページ参照)
Vehicle Info	インフォメーションディスプレイの各項目のリセットと表示切替をします。(5-28 ページ参照)
Settings	車両の操作に関連する設定を変更します。(5-29 ページ参照)
Phone (着信時と通話中のみ)	通話するための電話機能を表示します。(5-39 ページ参照)
Music	ポップアップ音楽プレーヤーを表示します。(5-39 ページ参照)
Navigation	ナビゲーションディスプレイを開きます。(5-39 ページ参照)
Meter Display	メインディスプレイを開きます。(5-39 ページ参照)
Turn-by-Turn	ターンバイターンのルート案内を開始します。(5-40 ページ参照)
Turn-by-Turn OFF	ターンバイターンのルート案内を終了します。(5-40 ページ参照)
Timer Stop	ラップタイマーを停止します。(5-40 ページ参照)
Timer Ready	ラップタイマーをスタンバイ状態にします。(5-40 ページ参照)
TRACK Settings	シフトタイミングインジケーターとラップタイマーの設定をします。(5-40 ページ参照)
LCS Launch Control	ローンチコントロールシステムの設定をします。(5-41 ページ参照)

要　点

- 表示されるメニューの項目は、現在選択されているテーマや、ディスプレイの表示状態 (メインディスプレイ／ナビゲーションディスプレイ) によって異なります。
- 車両が動いているときは、“ Theme”と“ Settings”はグレー表示になります。
- スマートフォンが車両に接続されていない場合は、“ Music”と“ Turn-by-Turn/Turn-by-Turn OFF”はグレー表示になります。

Theme

メインディスプレイのビジュアルテーマは、5 つのテーマから選択できます。(5-9 ページ参照)

Applications → ナビゲーション



ナビゲーションシステムで操作できる項目が表示されます。

- 表示切替
- 案内中止
- 次の経由地をスキップ
- 自宅
- 職場
- お気に入り
- 近くのガソリンスタンド

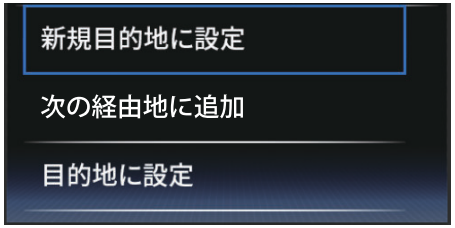
要　点

- 上記以外のナビゲーションシステムの操作は、スマートフォンの Garmin StreetCross アプリを直接操作してください。
- “表示切替”と“案内中止”と“次の経由地をスキップ”は、ルート案内中でない場合は使用できません。

ナビゲーションシステムの詳細については、5-20 ページを参照してください。



目的地を選択している時はナビゲーションディスプレイが開き、ルート案内が表示されます。

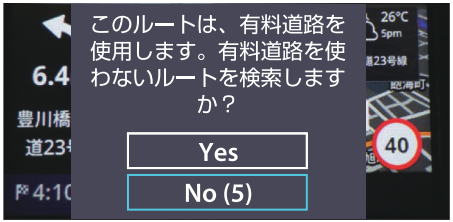


ルート案内中は、次のオプションが使用できます。

新規目的地に設定：現在のルート案内を中止して、新しい目的地を設定します。

次の経由地に追加：現在案内中の目的地の手前に経由地を追加します。

目的地に追加：現在案内中の目的地の後に、新しい目的地を追加します。

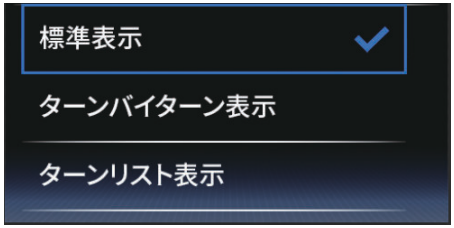


ルート上に有料道路がある場合は、有料道路を使用しないルートの選択確認が表示されます。“Yes”を選択すると有料道路を使用しないルートを探索します。“No”を選択すると有料道路を使用するルートで案内を開始します。

要　点

10 秒間何も選択しないと、自動的に有料道路を使用するルートで案内を開始します。

表示切替



ナビゲーションの表示を切り替えます。（標準表示、ターンリスト表示、ターンバイターン表示）設定後は、ナビゲーションディスプレイが選択された形式で表示されます。

案内中止

ルート案内を中止して、ナビゲーションのホーム画面を開きます。

次の経由地をスキップ

次の目的地をスキップして、ナビゲーションのホーム画面を開きます。

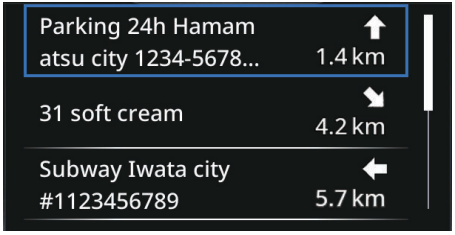
自宅

自宅に戻るルート案内が設定されます。（自宅は Garmin StreetCross アプリで事前登録が必要です。）

職場

職場へ行くルート案内が設定されます。（職場は Garmin StreetCross アプリで事前登録が必要です。）

お気に入り



お気に入りに登録された目的地と現在地からの距離が表示されます。（お気に入りは Garmin StreetCross アプリで事前登録が必要です。）

要　点

ルート案内中は現在の進行方向を上向き矢印として、保存された目的地の方角を矢印の向きで表示します。

近くのガソリンスタンド

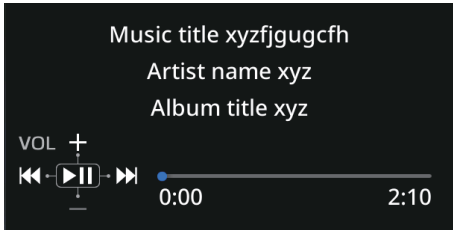


近くのガソリンスタンドと現在地からの距離が表示されます。

要　点

ルート案内中は現在の進行方向を上向き矢印として、ガソリンスタンドの方向を矢印で表示します。

Applications → 音楽

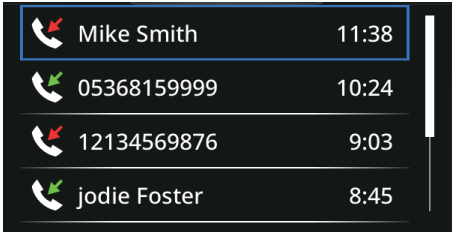


接続しているスマートフォンの音楽プレーヤーを表示します。
ジョイスティックを上下に操作して、音量を調整します。
ジョイスティックを左右に操作すると、前の曲／次の曲にスキップします。
“✔”を短押しすると、曲の再生／一時停止をします。

要　点

- 楽曲情報は、スマートフォンの音楽プレーヤーアプリから取り込まれます。
- スマートフォンや音楽プレーヤーのアプリケーションによっては、音楽プレーヤーが自動的に再生したり、楽曲情報が表示されなかったり、前の曲／次の曲などの機能が使用できない場合があります。

Applications → 電話

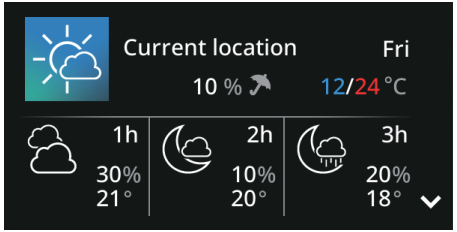


接続されたスマートフォンからの直近の着信履歴（CCU に接続された以降）が表示されます。着信履歴を表示すると、不在着信アイコン“”が消灯します。
：不在着信（赤）
：着信（緑）

要　点

- 同じ連絡先からの発着信は、連絡先の横に回数が表示されます。
- 着信履歴は最大 30 件まで保存されます。上限に達すると、古い履歴から削除されます。

Applications → 天気

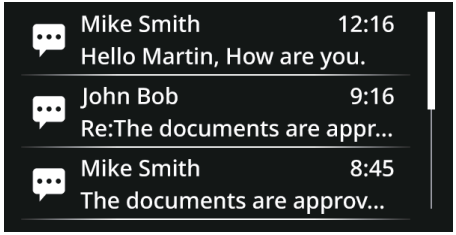


現在地の天気情報が表示されます。ジョイスティックを上下に操作すると、天気情報の予報間隔が変更できます。（時間単位/日単位）

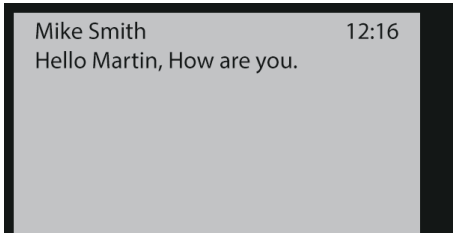
要　点

この天気情報はナビゲーションのホーム画面の天気情報と異なる場合があります。

Applications → 通知



接続されたスマートフォンからの通知のリスト（CCU に接続された以降）が表示されます。選択したメッセージを開いて内容を確認できます。通知アイコン“ ”は車両の電源をオフにすると消灯します。



要　点

- スマートフォンまたはアプリによっては、通知機能が使用できない場合があります。
- 通知は最大 30 件まで保存されます。上限に達すると、古い通知から削除されます。
- 長いメッセージは、すべてを表示できない場合があります。
- 走行中はメッセージを開いたり読んだりすることはできません。
- 通知に表示される時刻は、スマートフォンに表示されている時刻と異なる場合があります。

Applications → Information Transfer

Yamaha Motorcycle Connect アプリを使用して画像を転送し、ディスプレイに表示することができます。

Applications → 接続設定 → コネクション → Bluetooth



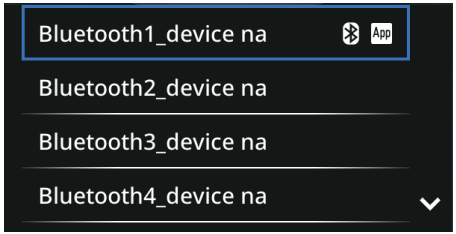
Bluetooth

CCU の Bluetooth 接続のオン／オフを切り替えることができます。チェックマークが入っていると、Bluetooth 接続はオンの状態です。

デバイス検出モード

スマートフォンとのペアリングを行うために、CCU をデバイス検出モードにします。Bluetooth のペアリング方法については 4-3 ページを参照してください。

登録済みデバイス



ペアリング登録されているスマートフォンが表示されます。デバイス名の横にある“App”は、Yamaha Motorcycle Connect アプリが現在 CCU に接続されていることを示します。デバイス名の横にある“ ”は、Garmin StreetCross アプリが現在 CCU に接続されていることを示します。

要　点

ペアリング登録できるスマートフォンは最大 8 台です。

スマートフォン名を選択すると次の操作ができます。



ペアリング削除 : 選択されたスマートフォンを CCU から削除します。
接続 : 選択されたスマートフォンを接続します。
切断 : 選択されたスマートフォンの接続を切断します。

要　点

Bluetooth 自動接続をオンに設定していると、切断後もすぐに自動接続される場合があります。

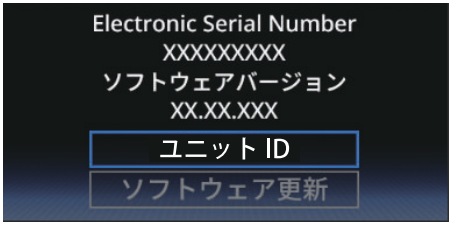
Bluetooth 自動接続

Bluetooth 自動接続のオン／オフを切り替えます。チェックマークが入っていると、自動接続はオンになっています。自動接続がオンになっている場合は、CCU は最後に接続されたスマートフォンと自動的に接続されます。最後に接続されたスマートフォンが無い場合は、登録済みデバイスリストの中の 1 台と接続されます。

要　点

Bluetooth 自動接続がオフの場合は、ペアリング登録されているスマートフォンと手動で接続ができます。

App Applications → 接続設定 → システム情報



現在のシステムソフトウェアのバージョンを表示します。

ユニット ID



CCU のユニット ID が含まれた QR コードを表示します。“✔”を短押しすると、ひとつ前のメニューに戻ります。

要　点

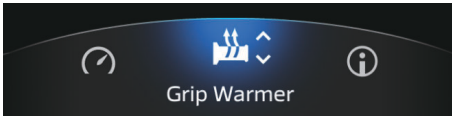
CCU のユニット ID は販売店の修理業務のみに必要になります。

Applications → 接続設定 → 法的情報



ソフトウェアのサードパーティライセンスは、こちらで確認できます。

Grip Warmer（装備している場合）



グリップウォーマーは、ジョイスティックを上下に操作して、3 つの温度設定またはオフのいずれかから選択し、温度調節ができます。温度設定は“Settings” → “Grip Warmer Settings”から調整することができます。（5-37 ページ参照）
この項目をハイライト表示した状態で“✔”を長押しすると、“Settings” → “Grip Warmer Settings”を直接開くことができます。

要　点

Theme4 の場合、この項目はポップアップメニューにありません。インフォメーションディスプレイに表示され、機能は同じです。

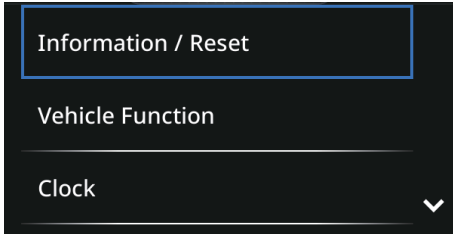
Vehicle Info

インフォメーションディスプレイに表示される項目を変更できます。（5-14 ページ参照）

要　点

Theme4 の場合、この項目はポップアップメニューにありません。

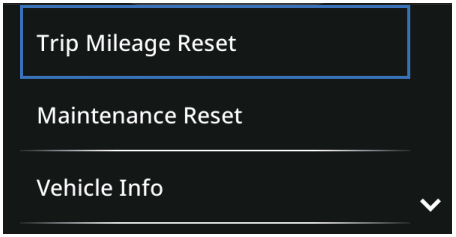
Settings



“Settings”メニューには、次の項目が表示されます。

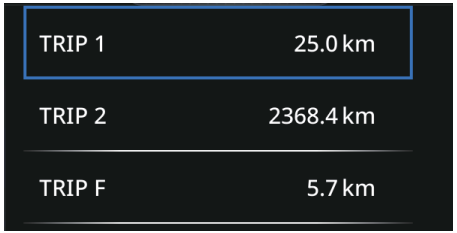
Information / Reset	車両情報をリセットします。(5-29 ページ参照)
Vehicle Function	走行を支援するシステムを設定します。(5-31 ページ参照)
Clock	時刻の調整／自動調整を設定します。(5-36 ページ参照)
Display	ディスプレイの明るさと背景の設定を変更します。(5-36 ページ参照)
Unit	ディスプレイに表示する単位を変更します。(5-37 ページ参照)
Grip Warmer Settings（装備している場合）	グリップウォーマーの温度を調節します。(5-37 ページ参照)
Shift Indicator	シフトインジケーターの設定を変更します。(5-38 ページ参照)
Connectivity Settings	スマートフォンの接続設定をします。(5-26 ページ参照)

Settings → Information / Reset



トリップメーター、メンテナンストリップメーター、車両情報の確認とリセットができます。また関連するその他の項目を工場出荷時の状態に一括リセットできます。

Trip Mileage Reset

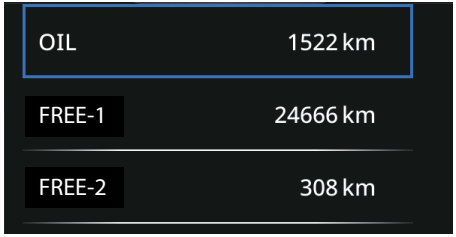


メインディスプレイのトリップメーターのリセットができます。ジョイスティックを操作して項目をハイライト表示し、“✔”を短押しします。“OK”を選択するとリセットされます。

要　点

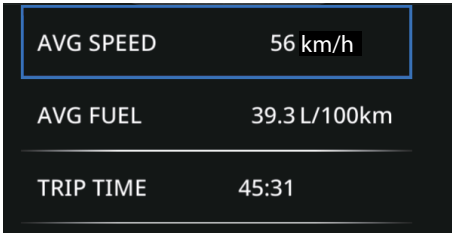
“TRIP F”は燃料が少ない時にしか選択できません。それ以外の時はグレー表示され、選択できません。

Maintenance Reset



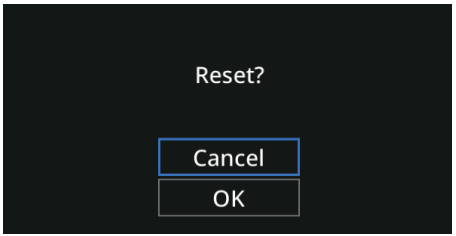
エンジンオイル交換“OIL”と、お好みのメンテナンス項目“FREE-1”／“FREE-2”のメンテナンス後の走行距離を記録できます。いずれかの項目のメンテナンスが完了したら、ジョイスティックを操作して項目をハイライト表示し、“✔”を短押しします。“OK”を選択するとリセットされます。

Vehicle Info



インフォメーションディスプレイの項目をリセットできます。ジョイスティックを操作して項目をハイライト表示し、“✔”を短押しします。“OK”を選択するとリセットされます。

All Reset

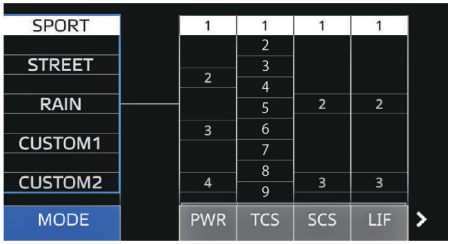


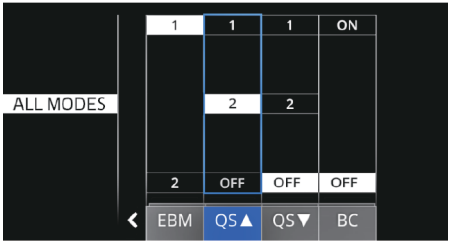
YRC 設定、ディスプレイの設定、グリップウォーマーの設定、トラクションコントロール、単位、Bluetooth 接続の設定、インフォメーションディスプレイの項目を初期状態に一括リセットできます。
“OK”を選択するとリセットされます。

要　点

- リセット後、ディスプレイが再起動され、再起動までに数分かかる場合があります。
- “All Reset”を実行した場合は、一度スマートフォンからもペアリング履歴を削除した後に、あらためてペアリングしてください。
- 車両を売却または所有権を変更する前に、マルチファンクションメーターをリセットして、スマートフォンからのすべての個人データ（通話履歴や連絡先情報など）が削除されていることを必ず確認してください。
- マルチファンクションメーターをリセットした場合は、Bluetooth のペアリング履歴と Yamaha Motorcycle Connect アプリのペアリング履歴をスマートフォンから削除してください。削除しないとスマートフォンと再度ペアリングできなくなります。

⚙ Settings → Vehicle Function → YRC Settings → YRC Modes





このメニューでは次の設定ができます。

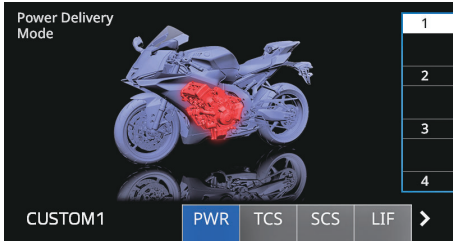
- YRC モードを“SPORT”、“STREET”、“RAIN”、“CUSTOM 1”、“CUSTOM 2”の中から選択します。
- “CUSTOM 1”と“CUSTOM 2”を選択した場合は、“PWR”、“TCS”、“SCS”、“LIF”の設定を変更することができます。
- “EBM”、“QS △”、“QS ▽”、“BC”の設定を変更することができます。

ジョイスティックを上下に操作して、YRC モードを選択します。
ジョイスティックを左右に操作して設定項目を選択し、ジョイスティックを上下に操作して設定値を変更します。
ハイライト表示された項目で“✔”を短押しすると、ビジュアル表現に切り替わります。
ホームボタン“⌂”を短押しすると、元の表示に戻ります。
ホームボタン“⌂”を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

要　点

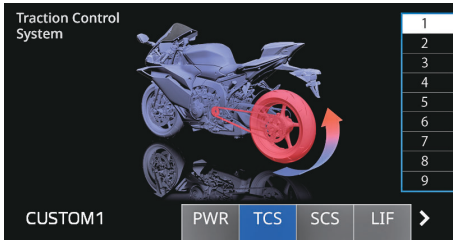
- “CUSTOM 1”と“CUSTOM 2”の名前や各項目の設定値は、Yamaha Motorcycle Connect アプリから変更することもできます。（5-35 ページ参照）
- “EBM”、“QS”、“BC”の設定はすべての YRC モードで適用されます。

PWR（パワーデリバリーモード）



PWR は、4 段階の設定レベルがあります。（3-1 ページ参照）
レベル 1：スポーティなエンジン出力
レベル 2：スムーズなエンジン出力
レベル 3：マイルドなエンジン出力
レベル 4：雨天等のエンジン出力を抑えたい場合

TCS（トラクションコントロールシステム）

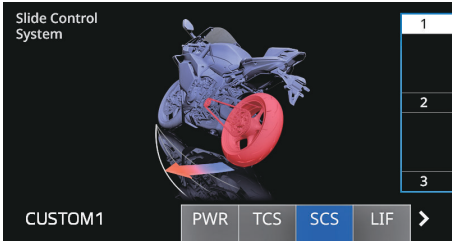


この車両は、可変トラクションコントロールシステムが装備されています。各設定レベルにおいて、車体を大きく傾けるほど、トラクションコントロール（システム介入）が強くなります。9 段階の設定レベルがあり、レベル 1 ではシステム介入が最小限に抑えられ、レベル 9 では後輪のスリップを抑制するためにシステム介入が最大になります。(3-1 ページ参照)

要　点

トラクションコントロールシステムは、“⚙ Settings” → “Vehicle Function” → “Stability Control ON/OFF” からのみ、完全にオフにすることができます。(5-35 ページ参照)

SCS（スライドコントロールシステム）



SCS は、3 段階の設定レベルがあります。レベル 1 ではシステム介入が最小限に抑えられ、レベル 3 では後輪の横すべりを抑制するためにシステム介入が最大になります。(3-2 ページ参照)

レベル 1：スポーティな走行に適しています。

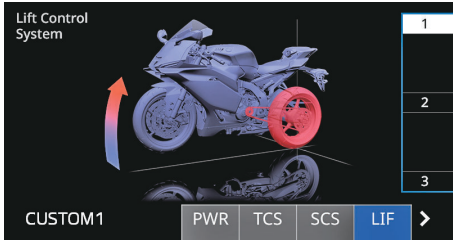
レベル 2：ストリート走行に適しています。

レベル 3：濡れた路面や滑りやすい路面での走行に適しています。

要　点

スライドコントロールシステムは、“⚙ Settings” → “Vehicle Function” → “Stability Control ON/OFF” からのみ、完全にオフにすることができます。(5-35 ページ参照)

LIF（リフトコントロールシステム）



LIF は、3 段階の設定レベルがあります。レベル 1 ではシステム介入が最小限に抑えられ、レベル 3 では前輪の浮き上がりを抑制するためにシステム介入が最大になります。(3-2 ページ参照)

レベル 1：リフトコントロールが、最も少ない。よりスポーティな走行に適しています。

レベル 2：中程度のリフトコントロール。スポーティな走行に適しています。

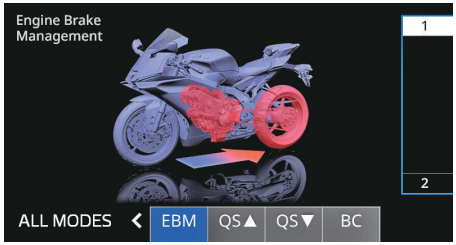
レベル 3：リフトコントロールが、最も多い。ストリート走行に適しています。

要　点

リフトコントロールシステムは、“⚙ Settings” → “Vehicle Function” → “Stability Control ON/OFF” からのみ、完全にオフにすることができます。

（5-35 ページ参照）

EBM（エンジンブレーキマネージメント）

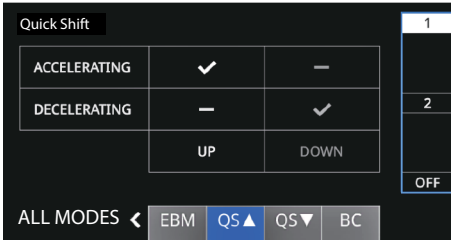


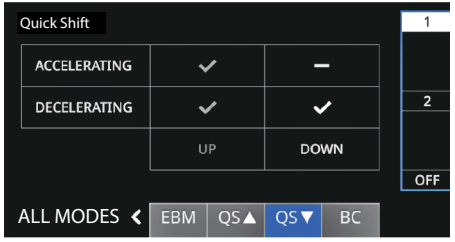
EBM は、2 段階の設定レベルがあります。レベル 1 ではシステムの介入が最小限に抑えられ、レベル 2 では、エンジンブレーキを最も強く抑えることができます。（3-3 ページ参照）

レベル 1：システム介入が最小になり、エンジンブレーキの効きは最大になります。

レベル 2：システム介入が最大になり、エンジンブレーキの効きは最小になります。

QS △ / QS ▽（クイックシフター）





QS △（シフトアップ）と QS ▽（シフトダウン）は、個別に設定することができます。（3-3 ページ参照）

設定 1：加速時のみシフトアップが可能。減速時のみシフトダウンが可能。

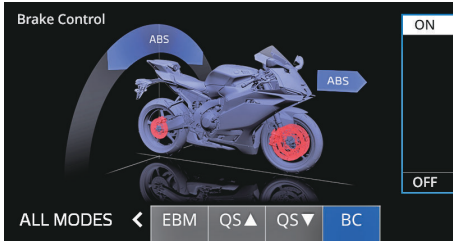
設定 2：加減速に関わらずシフトアップとシフトダウンが可能です。

シフトアップまたはシフトダウン機能をオフにした場合、クラッチレバーを使用してシフトアップまたはシフトダウンする必要があります。

要　点

- 設定 1 は、クイックシフターの作動範囲が制限されており、トラック走行などにおいて意図せずにシフトペダルに触れてしまった場合の変速を防ぐために使用することもできます。
- 設定 2 は、様々なシーンでのシフトチェンジを容易にすることができます。
- クイックシフターの設定状態については、クイックシフターアイコンに反映されます。（5-17 ページ参照）

BC（ブレーキコントロール）



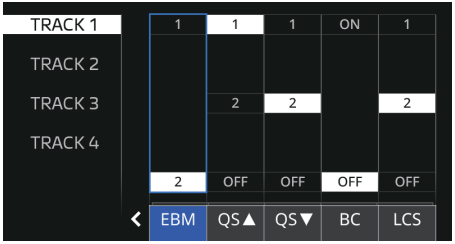
OFF：標準の ABS 制御です。走行速度とホ

イールの回転速度からブレーキ圧を調整します。車体が直立した状態でブレーキをかけたとき、最大限の効果を得られるように設計されています。
ON：標準の ABS 制御に加え、コーナリングアシストブレーキが有効になります。IMU からの情報に基づきコーナリング時の制動力を調整し、ホイールがスリップすることを抑制します。
ブレーキシステムの詳細については、3-3 ページを参照してください。

要　点

- リヤブレーキの ABS をオフにすると、BC（ブレーキコントロール）は、無効になります。
- 熟練したライダーやトラック走行の場合、さまざまな条件により、BC システムが希望のコーナリングスピードや意図したコーナリングラインに対して、想定よりも早く作動する場合があります。

⚙ Settings → Vehicle Function → YRC Settings → TRACK YRC Modes

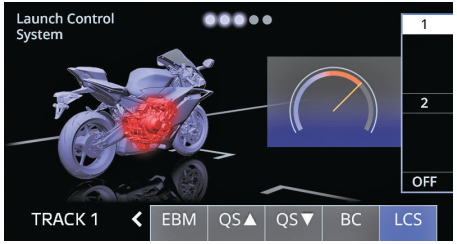


テーマが Track の場合に、YRC モードをカスタマイズして登録できる 4 つの TRACK モードがあります。

要　点

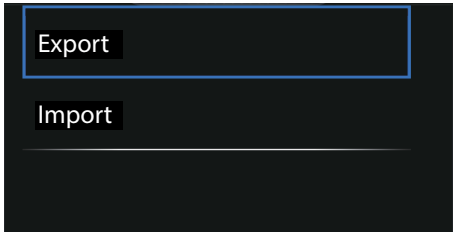
- 名前や設定レベルは、Yamaha Motorcycle Connect アプリからも変更できます。（5-35 ページ参照）
- “EBM”、“QS”、“BC” の設定はすべての YRC モードで適用されます。
- テーマが Track の場合、“BC” の初期設定はオフです。

LCS（ローンチコントロールシステム）



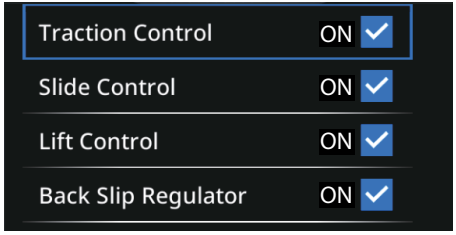
LCS は、レベル 1、レベル 2 またはオフに設定できます。（3-4 ページ参照）
レベル 1：エンジン回転数が 9000 r/min を超えないようになります。
レベル 2：エンジン回転数が 8000 r/min を超えないようになります。
OFF：LCS 機能がオフになります。

Settings → Vehicle Function → YRC Settings → Import / Export to App



Yamaha Motorcycle Connect アプリを使用して、変更した YRC モード設定をインポート／エクスポートすることができます。

Settings → Vehicle Function → Stability Control ON/OFF

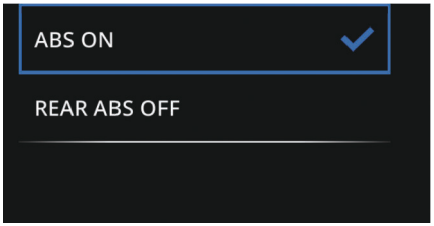


スタビリティコントロールシステムは、“Traction Control” (TCS)、“Slide Control” (SCS)、“Lift Control” (LIF)、“Back Slip Regulator” (BSR)のオン／オフをまとめて切り替えることができます。(3-1 ページ参照)
システムを個別にオフにすると、対応する表示灯が点灯します。(5-17 ページ参照)
TCS のオン／オフを切り替えると、SCS、LIF、BSR も同時にオン／オフが切り替わります。TCS をオフにすると、スタビリティコントロールシステム表示灯 “SC” が点灯します。(5-8 ページ参照)

要　点

- テーマが Track の場合、“Back Slip Regulator” (BSR)は無効に設定されており、項目はグレー表示されています。
- 車両の電源をオンにすると、自動的に TCS はオンになります。

Settings → Vehicle Function → ABS Settings



リヤブレーキの ABS のオン／オフを切り替えることができます。現在選択されている ABS モードは、REAR ABS OFF 表示灯 “REAR” で表示されます。(5-17 ページ参照)

要　点

リヤブレーキの ABS をオフにすると、BC (ブレーキコントロール) は無効になります。
リヤブレーキの ABS をオフにした場合、以下の操作を行うまでオフになります。

- メインスイッチをオフにする。
- 停車中にメニューシステムから ABS をオンにする。

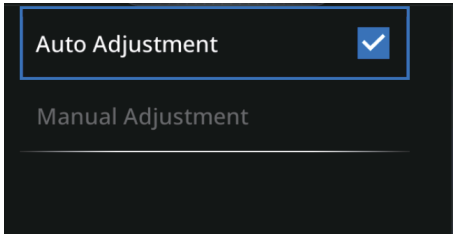
JWA22690

⚠警　告

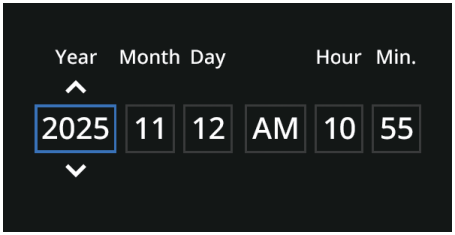
リヤブレーキの ABS オフ設定は、クローズ

ドサーキットを走行する場合のみ、使用してください。

Settings → Clock

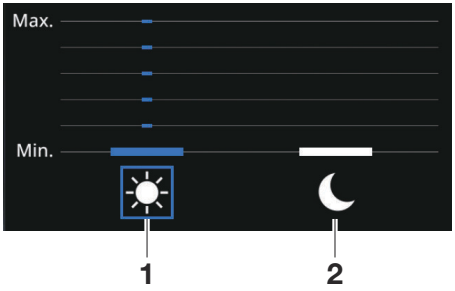


時計はスマートフォンと同期して自動調整できます。“Auto Adjustment”をオンするとチェックマークが入りますので、その状態で Yamaha Motorcycle Connect アプリに接続してください。（4-2 ページ参照）“Manual Adjustment”では時計を手動で調整できます。



時計を手動で調整するには、ジョイスティックを左右に操作して項目を選択し、ジョイスティックを上下に操作してハイライト表示された項目を調整します。“✔”を短押しすると時計が設定され、“OK”を選択して確定します。

Settings → Display → Brightness



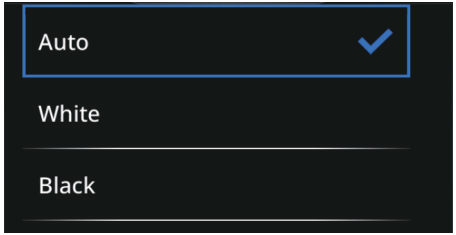
1. 昼
2. 夜

マルチファンクションメーターには、周囲の明るさを感知し、ディスプレイの明るさを自動的に昼／夜で切り替えるセンサーが装備されています。ディスプレイの明るさは昼／夜のそれぞれで調整することができます。ジョイスティックを左右に操作して昼または夜を選択し、ジョイスティックを上下に操作して明るさを 1-6 段階で調整します。“✔”を短押しすると設定され、前のメニューに戻ります。

要　点

昼／夜の明るさの調整は、それぞれの適切な環境で調整してください。

⚙ Settings → Display → Background

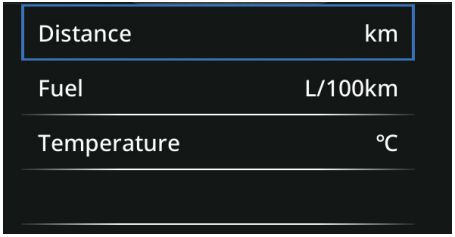


マルチファンクションメーターには、周囲の明るさを感知し、ディスプレイの明るさを切り替えるセンサーが装備されています。
“White”（昼）または“Black”（夜）は、ディスプレイの明るさが選択した設定のままになります。
“Auto”を選択すると、周囲の明るさに応じて自動で切り替わります。

要　点

テーマが Track の場合、ディスプレイは“White”（昼）のみの表示となります。

⚙ Settings → Unit

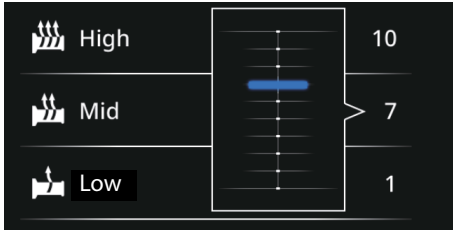


ディスプレイの表示単位は次のように変更できます。

- Distance（距離）：km または mile
- Fuel（燃費）：km/L、L/100km または MPG
- Temperature（温度）：℃ または℉

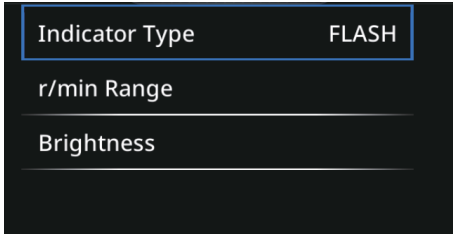
距離単位に“mile”を選択すると、燃費単位は自動的に“MPG”に変更されます。その場合、“Fuel”はグレー表示になり、選択できません。

⚙ Settings → Grip Warmer Settings（装備している場合）



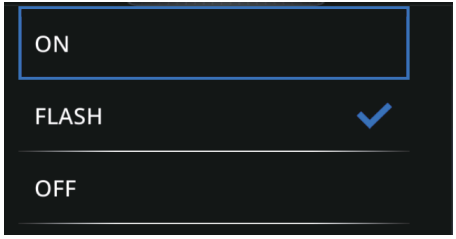
グリップウォーマーには 3 つの温度設定があり、それぞれの設定温度を調節できます。調整する温度設定を“✔”を短押して選択し、ジョイスティックを上下に操作して温度レベルを 1-10 段階で調整します。“✔”を短押しすると設定され、前のメニューに戻ります。

Settings → Shift Indicator



シフトタイミングインジケーターランプの設定を変更できます。

Indicator Type

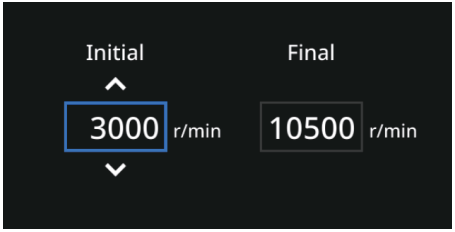


“ON”を選択すると、設定した Final エンジン回転数に達すると点灯します。FLASH を選択すると、設定した Initial エンジン回転数に達すると点滅を開始し、Final エンジン回転数に達するとより早く点滅します。“OFF”を選択するとインジケーターランプは作動しません。“✔”を短押しして選択し、前のメニューに戻ります。

要　点

選択した設定に応じて、シフトタイミングインジケーターランプが点灯または点滅します。

r/min Range

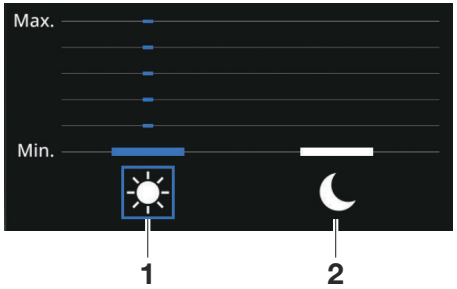


シフトタイミングインジケーターランプが点灯するエンジン回転数（r/min）を選択します。3000–10500 r/min の間で、250 r/min 単位で調整できます。“✔”を短押しすると設定され、前のメニューに戻ります。

要　点

- “Initial” は “Final” より低い回転数（r/min）で設定されます。
- ギヤがニュートラルのときは、シフトタイミングインジケーターランプは点灯しません。
- ギヤが 6 速のときは、シフトタイミングインジケーターランプは点灯しません。（Track の場合を除く）

Brightness



1. 昼
2. 夜

ジョイスティックを上下に操作して、シフトタイミングインジケーターランプの昼／夜それぞれの明るさを 1-6 の間で選択します。“✔”を短押しすると設定され、前のメニューに戻ります。

要　点

昼／夜の明るさの調整は、それぞれの適切な環境で調整してください。

Phone（着信時と通話中のみ）

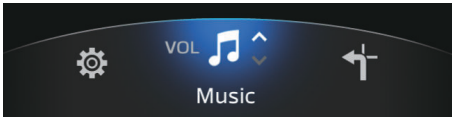


着信／通話画面が開き、相手の名前と通話時間が表示されます。
ジョイスティックを上下に操作して通話音量を調整します。
“✔”を短押しすると、通話は終了します。

要　点

スマートフォンの機種によっては、車両のスイッチ操作による音量調節や通話終了ができない場合があります。その場合は、音量調節と通話終了表示がグレー表示になりますので、スマートフォンを直接操作してください。

Music



ジョイスティックを上下に操作して音量を調整します。
“✔”を短押しすると、その他の機能が表示されます。

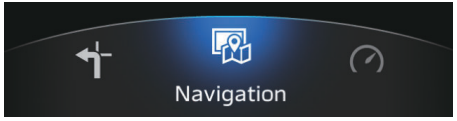


接続されたスマートフォンの音楽プレーヤーアプリと連携したポップアップ音楽プレーヤーが表示されます。
ジョイスティックを上下に操作して、音量を調整します。
ジョイスティックを左右に操作すると、前の曲／次の曲にスキップします。
“✔”を短押しすると、曲の再生／一時停止をします。

要　点

- 楽曲情報は、スマートフォンの音楽プレーヤーアプリから取り込まれます。
- スマートフォンや音楽プレーヤーのアプリケーションによっては、音楽プレーヤーが自動的に再生したり、前の曲／次の曲などの機能が使用できない場合があります。
- Theme4 の場合、この項目はポップアップメニューにありません。インフォメーションディスプレイに表示され、機能は同じです。

Navigation



ナビゲーションディスプレイが開きます。このメニューアイコンは、メインディスプレイの場合のみ表示されます。

Meter Display



メインディスプレイが開きます。このメニューアイコンは、ナビゲーションディスプレイの場合のみ表示されます。

Turn-by-Turn / Turn-by-Turn OFF



メインディスプレイ下部にあるターンバイターンのルート案内のオン／オフができます。



このメニューアイコンは、メインディスプレイの場合のみ表示されます。

Timer Ready



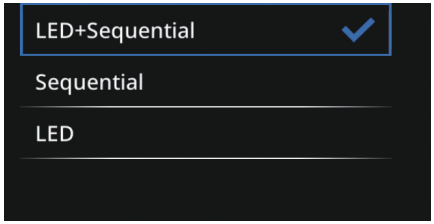
ラップタイムディスプレイで、ラップタイムの“:”と“.”が点滅し、スタンバイ状態であることを示します。
ラップタイマーは、テーマが Track の場合のみ使用できます。

Timer Stop



ラップタイマーを一時停止し、メインディスプレイに戻ります。ラップタイマーは、もう一度“Timer Ready”を選択することで再開できます。
このメニューは、テーマが Track の場合のみ使用できます。

TRACK Settings → Shift Indicator Mode



LED のシフトタイミングインジケーターランプ“○”(5-7 ページ参照) と Track テーマのメインディスプレイにあるシフトタイミングインジケーター（5-9 ページ参照）の表示状態を選択することができます。
“LED+Sequential”：両方のシフトタイミングインジケーターを有効にします。
“Sequential”：シフトタイミングインジケーター（Track）のみを有効します。
“LED”：シフトタイミングインジケーターランプ“○”のみを有効します。

TRACK Settings → Peak Rev Indicator

最高回転数ホールドインジケーターの表示

／非表示を選択します。(5-9 ページ参照)

TRACK Settings → Auto Lap Timer

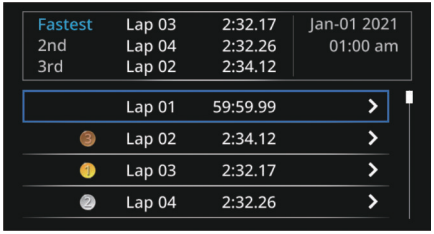
オートラップタイマーが有効になります。オートラップタイマーは、Y-TRAC Rev アプリから設定する必要があります。

要　点

オートラップタイマーが選択されている間は、通常のラップタイマーは利用できず、メニューアイコンはグレー表示になります。ラップタイムは“Lap Time”には記録されません。

TRACK Settings → Lap Time

“Lap Time”には、記録されたラップタイム、最初に記録されたラップの日付、および追加のラップデータが表示されます。



ジョイスティックを矢印の方向に操作すると、ラップデータを追加したり、ラップデータを個別に削除することができます。

要　点

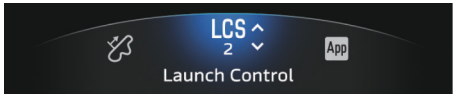
ここで表示される速度はスピードメーターと異なる場合があります。



TRACK Settings → Lap Reset

記録されたすべてのラップタイムとラップデータを削除し、ラップタイマーをリセットします。

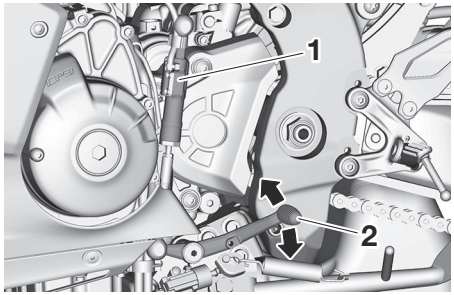
LCS Launch Control



ジョイスティックを上下に操作して、LCS（ローンチコントロールシステム）の設定レベルをレベル 1、レベル 2、オフに設定できます。設定レベルが 1 または 2 の場合、“✔”を短押ししてこの項目を選択すると、LCS が有効になります。
ローンチコントロールシステムの詳細については、3-4 ページを参照してください。

JAU83694

シフトペダル



1. シフトロッド
2. シフトペダル

シフトペダルは車両の左側にあります。シフトアップするには、シフトペダルを上に動かし、シフトダウンするには、シフトペダルを下に動かします。（7-2 ページ参照）
シフトロッドには、クイックシフターの一部であるシフトセンサーが装備されています。シフトセンサーは、シフトペダルを動かしたときの上下の動きと入力の強さを読み取ります。

要　点

意図しないギヤチェンジを防ぐため、クイックシフターは不明確な入力信号を無視するようプログラムされています。ギヤチェンジするときは、素早く十分な強さで操作してください。

JAUA5990

ブレーキシステム

この車両には、統合型アンチロックブレーキシステム（ABS）が装備されています。

ブレーキの操作方法

ブレーキレバーとペダルは、従来のブレーキと同様に操作してください。ブレーキング時に車輪のスリップが検知されると、ABS が作動し、ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じることがあります。そのままブレーキをかけ続けて、ABS を作動させてください。ブレーキを効果的に作動させるために、ポンピングブレーキはしないでください。

要　点

ABS は、車両が時速 10 km を超えると、自己診断を行います。自己診断中、ハイドロリックコントロールユニットからクリック音が聞こえ、ブレーキレバーやペダルに振動が感じられる場合がありますが、故障ではありません。

ABS

この車両の ABS（アンチロックブレーキシステム）は、フロントブレーキとリアブレー

キに独立して働きます。

JWA16051

⚠ 警 告

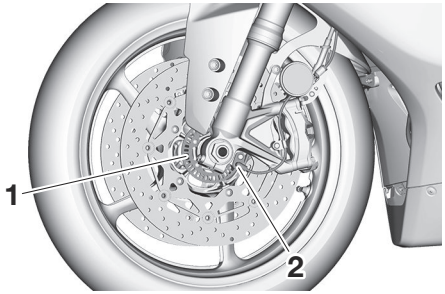
ABS を作動させた場合でも、走行速度に合わせて、常に前方車両から十分な距離を保って走行してください。

- **ABS は制動距離が長いほど、効果が発揮されます。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。 速度はひかえめにし、車間距離を充分にとってください。**

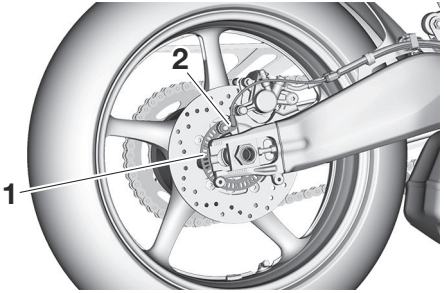
JCA20100

注 意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサーローター
2. フロントホイールセンサー



1. リヤホイールセンサーローター
2. リヤホイールセンサー

この車両には、ブレーキシステムの設定が装備されています。詳細は、3-3 ページを参照してください。

JAU13078

フューエルタンクキャップ

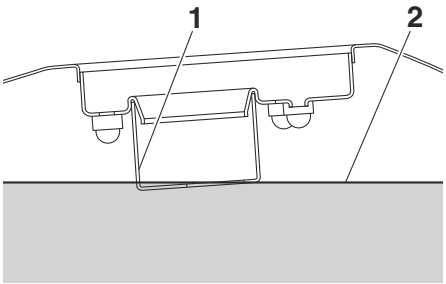
JWA12172

⚠ 警 告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

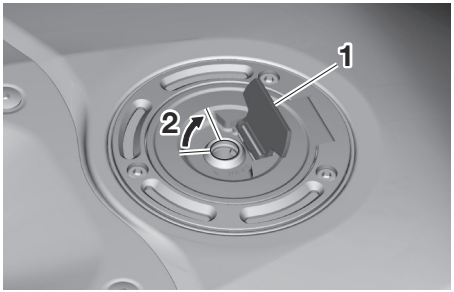
- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実**

に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. 解除

1. ロックカバーを開けます。
2. キーを差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーを差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要　点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることはできません。

JAU31461

燃料

JAU28334

指定燃料

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
14 L

JCA12512

注 意

- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

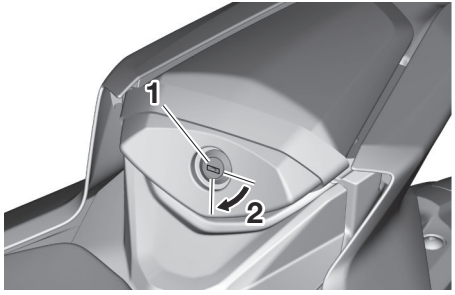
JAUA5170

シート

タンデムシート

タンデムシートの取り外しかた

1. キーをシートロックに差し込み、時計方向に回します。

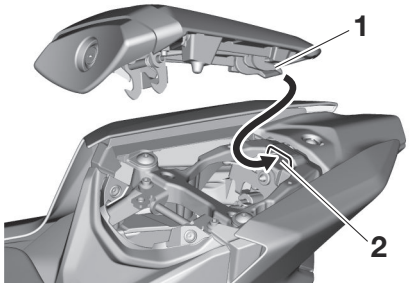


1. シートロック
2. 解除

2. タンデムシートの前部を持ち上げ、前方向にずらしながらタンデムシートを取り外します。

タンデムシートの取り付けかた

1. タンデムシートの後部にある突起を図のようにシートホルダーに差し込みます。



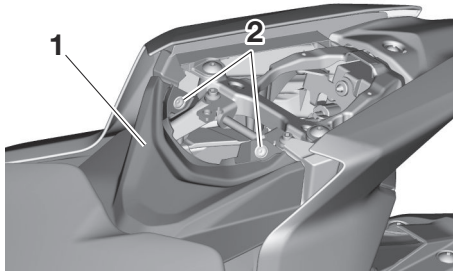
1. 突起
2. シートホルダー

2. キーをシートロックに差し込み、時計方向に回します。キーを時計方向に回したまま、タンデムシートの前部を押し下げ、タンデムシートをロックします。
3. キーを反時計方向に回して差し込み位置まで戻し、キーを抜き取ります。

ライダーシート

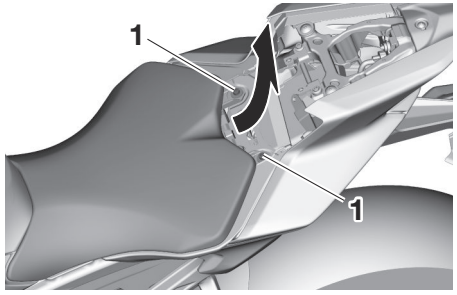
ライダーシートの取り外しかた

1. タンデムシートを取り外します。クイックファスナーを外し、センターカバーを取り外します。



1. センターカバー
2. クイックファスナー

2. ボルトを外し、ライダーシートの後部を持ち上げて取り外します。

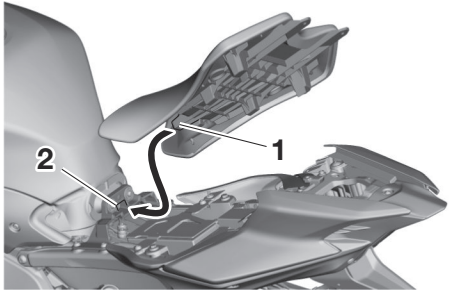


1. ボルト

ライダーシートの取り付けかた

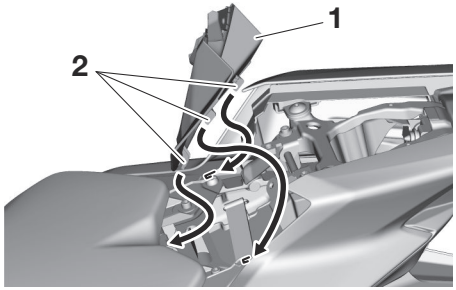
1. 図のように、ライダーシートの前部にあ

る突起をシートホルダーに差し込み、元の位置に取り付けます。



1. 突起
2. シートホルダー

2. ボルトを締め付けます。
3. 図のように突起を差し込み、センターカバーを元の位置に取りつけます。



1. センターカバー
2. 突起

4. クイックファスナーを取り付けます。
5. タンデムシートを取り付けます。

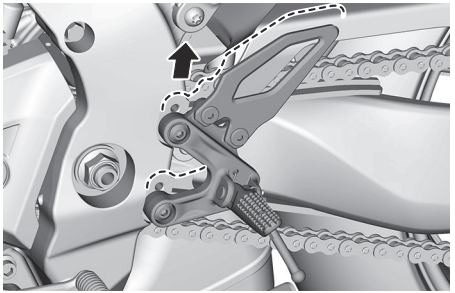
要　点

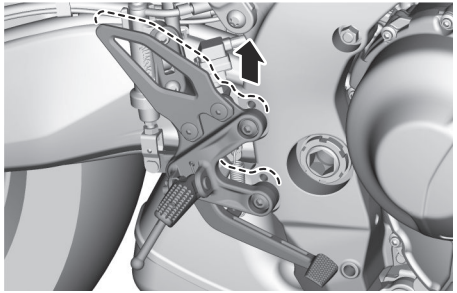
走行前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。

JAU91560

ライダーフートレスト位置の調整

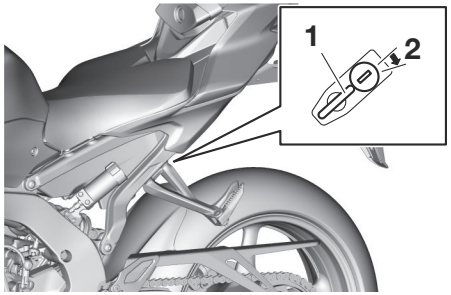
ライダーフートレストは、2 つの位置のうちいずれかに調整することができます。工場出荷時、フートレストは低い位置に調整されています。フートレスト位置の調整はヤマハ販売店に依頼してください。





JAU14283

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

⚠警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

要 点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

JAUA2880

書類入れ

タンデムシートを外すと書類入れ（収納用ポーチ）があります。（5-47 ページ参照）車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。書類入れは、小物入れに保管してください。

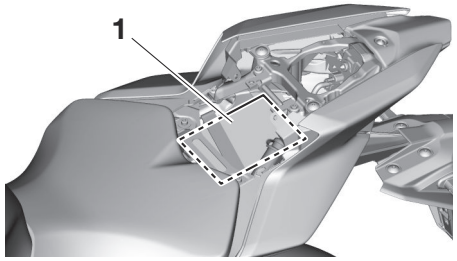
JCA28461

注 意

電子部品（IC チップ）を内蔵した電子車検証は、IC タグを損傷しないように大切に保管してください。

JAUA3550

小物入れ



1. 小物入れ

タンデムシートの下に小物入れがあります。（5-45 ページ参照）

JCA12972

注 意

小物入れを使用する時は以下の点に注意してください。

- **洗車をすると中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。**
- **濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、小物入れ内にカビなどが発生することがあります。**
- **貴重品やこわれやすい物は入れないでください。**

● 小物入れ内は直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい物は入れないでください。

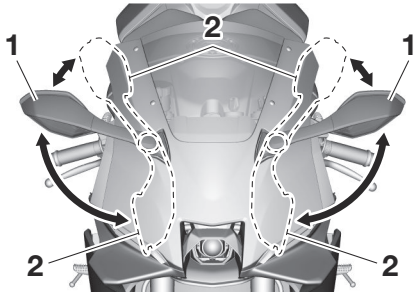
要　点

車から離れるときは、必ずシートをロックしてください。

JAU39672

バックミラー

この車のバックミラーは、狭いスペースで駐車するために前方または後方に折りたたむことができます。乗車する前に、バックミラーを元の位置に折り返してください。



1. 乗車するときの位置
2. 駐車するときの位置

JWA14372

⚠ 警 告

乗車する前には、必ずバックミラーを元の位置に折り返すようにしてください。

JAUA5231

フロントフォークの調整

JWA10181

⚠ 警 告

左右のフォークは同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

フロントフォークには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスター、圧側減衰力アジャスター（高速減衰時用）および圧側減衰力アジャスター（低速減衰時用）が装備されています。

JCA22472

注 意

● サスペンション調整時には、アルマイト処理された表面を傷つけないよう、細心の注意を払ってください。

● サスペンションの内部構造へのダメージを避けるため、最大もしくは最小の設定値を超えて回さないでください。

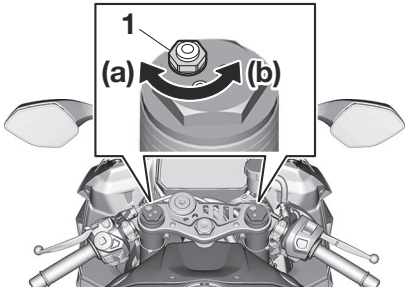
スプリングプリロード

プリロードアジャスターを(a)方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b)方向に回すと小さくなります。

スプリングプリロードの調整は、アジャス

5

ターを(b)方向に止まるまで回し、(a)方向へ戻す回転数を数えます。



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
(a)方向へ 0 回転
標準：
(a)方向へ 3 回転
最大（ハード）：
(a)方向へ 15 回転

要　点

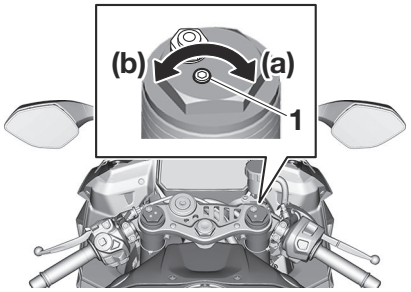
アジャスターを(a)方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、スプリングプリロードに変化はありません。またサスペンションを損傷するおそれがあります。調整範囲内で使用してください。

伸側減衰力

伸側減衰力は右側フロントフォークで調整します。
減衰力アジャスターを(a)方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b)方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを(a)方向に止まるまで回し、(b)方向へ戻すクリック段数を数えて行います。

要　点

この調整は必ず右側フロントフォークで行ってください。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：
最小（ソフト）：
(b)方向へ 23 段
標準：
(b)方向へ 7 段
最大（ハード）：
(b)方向へ 1 段

要　点

- アジャスターを(a)方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを(b)方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。またサスペンションを損傷するおそれがあります。調整範囲内で使用してください。

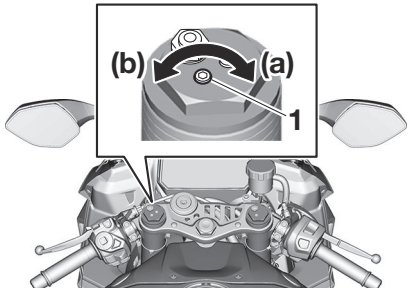
圧側減衰力

圧側減衰力アジャスター（高速減衰時用）
圧側減衰力は左側フロントフォークで調整します。
減衰力アジャスターを(a)方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b)方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを(a)方向に止まるまで回し、(b)方向へ戻すクリック段数を数えて行います。

要　点

この調整は必ず左側フロントフォークで行ってください。



1. 圧側減衰力アジャスター（高速減衰時用）

圧側減衰力（高速減衰時用）：

最小（ソフト）：
(b)方向へ 23 段
標準：
(b)方向へ 8 段
最大（ハード）：
(b)方向へ 1 段

要　点

- アジャスターを(a)方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを(b)方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。またサスペンションを損傷するおそれがあります。調整範囲内で使用してください。

<u>圧側減衰力アジャスター（低速減衰時用）</u>

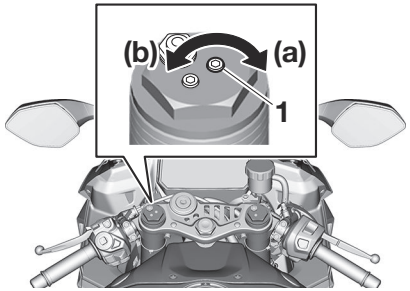
圧側減衰力は左側フロントフォークで調整します。

減衰力アジャスターを(a)方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b)方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを(a)方向に止まるまで回し、(b)方向へ戻すクリック段数を数えて行います。

要　点

この調整は必ず左側フロントフォークで行ってください。



1. 圧側減衰力アジャスター（低速減衰時用）

圧側減衰力（低速減衰時用）：

最小（ソフト）：
(b)方向へ 14 段
標準：
(b)方向へ 7 段
最大（ハード）：
(b)方向へ 1 段

要　点

- アジャスターを(a)方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを(b)方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。またサスペンションを損傷するおそれがあります。調整範囲内で使用

してください。

JAUA5190

リヤクッションの調整

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスター、圧側減衰力アジャスター（高速減衰時用）および圧側減衰力アジャスター（低速減衰時用）が装備されています。

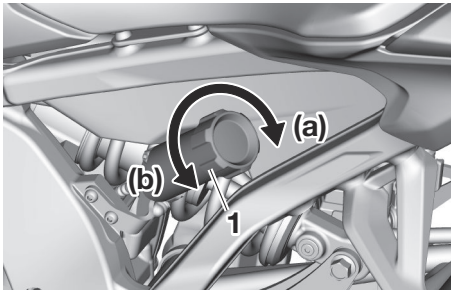
JCA10102

注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロード

プリロードアジャスターを(a)方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b)方向に回すと小さくなります。
スプリングプリロードの調整は、アジャスターを(b)方向に止まるまで回し、(a)方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
(a)方向へ 1 段
標準：
(a)方向へ 14 段
最大（ハード）：
(a)方向へ 24 段

要 点

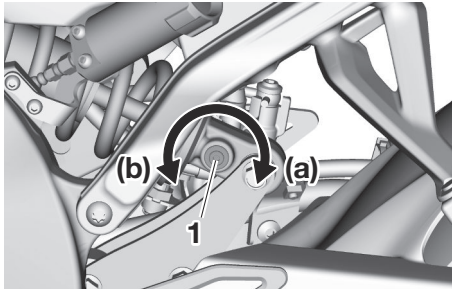
- アジャスターを(b)方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを(a)方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。またサスペンションを損傷するおそれがあります。調整範囲内で使用

してください。

伸側減衰力

減衰力アジャスターを(a)方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b)方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを(a)方向に止まるまで回し、(b)方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：

最小（ソフト）：
(b)方向へ 23 段
標準：
(b)方向へ 6 段
最大（ハード）：
(b)方向へ 1 段

要　点

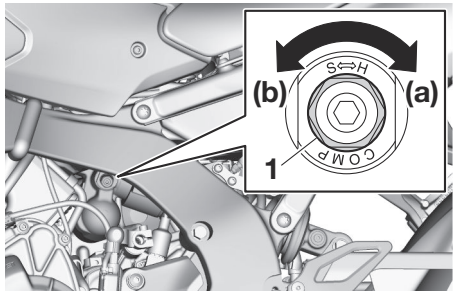
- アジャスターを(a)方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを(b)方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。またサスペンションを損傷するおそれがあります。調整範囲内で使用してください。

圧側減衰力

圧側減衰力アジャスター（高速減衰時用）

減衰力アジャスターを(a)方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b)方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを(a)方向に止まるまで回し、(b)方向へ戻す回転数を数えて行います。



1. 圧側減衰力アジャスター（高速減衰時用）

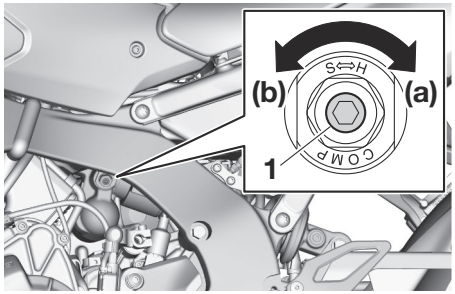
圧側減衰力（高速減衰時用）：

最小（ソフト）：
(b)方向へ 5.5 回転
標準：
(b)方向へ 3 回転
最大（ハード）：
(b)方向へ 0 回転

要　点

アジャスターを(b)方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。またサスペンションを損傷するおそれがあります。調整範囲内で使用してください。

圧側減衰力アジャスター（低速減衰時用）
減衰力アジャスターを(a)方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b)方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを(a)方向に止まるまで回し、(b)方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 圧側減衰力アジャスター（低速減衰時用）

圧側減衰力（低速減衰時用）：
最小（ソフト）：
(b)方向へ 18 段
標準：
(b)方向へ 11 段
最大（ハード）：
(b)方向へ 1 段

要　点

- アジャスターを(a)方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを(b)方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JWA10222

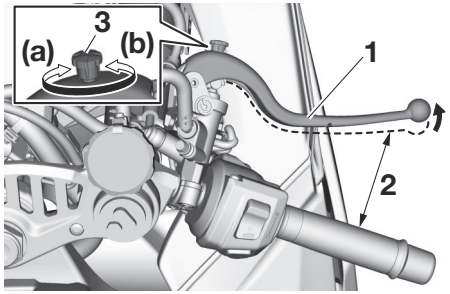
⚠警 告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

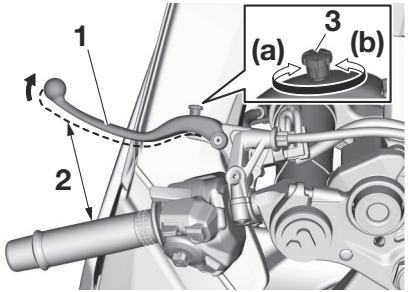
JAUA2890
ブレーキレバー／クラッチレバーの握り調整
手の大きさに合わせて、ブレーキレバー、クラッチレバーの握り幅を調整できます。
握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。アジャスターを(a)方向に回すと握り幅が広くなり、(b) 方向に回すと狭くなります。

＜ブレーキレバー＞



1. ブレーキレバー
2. 握り幅
3. アジャスター

＜クラッチレバー＞



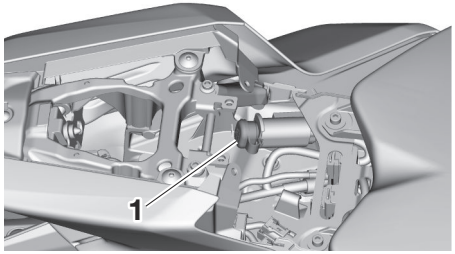
1. クラッチレバー
2. 握り幅
3. アジャスター

JAU70642
DC コネクター
この車には、オプションの電装アクセサリーを取り付けるために、DC コネクターが搭載されています。
コネクタの位置や容量および取り付け可能なアクセサリーについては、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

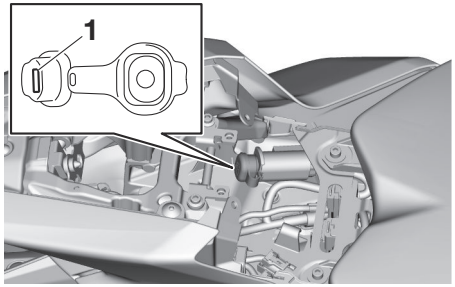
JAUA1833

USB Type-C ジャック

この車両には、５Ｖ３ＡのUSB Type-Cジャックが搭載されています。USB Type-Cジャックは、車両の電源がオンのときに使用できます。



1. USB ジャックキャップ



1. USB Type-C ジャック

要　点

- このUSB ジャックは急速充電やデータ通信ができません。また、気温によっては既定の供給電力を下回ることがあります。
- エンジンを停止した状態でUSB Type-Cジャックを使用しないでください。バッテリーが消耗します。
- 条件によっては、USB が接続されていても、デバイスのバッテリー残量が低下することがあります。

JCA28531

注 意

- **USB Type-C ジャックを水や衝突から保護するために、USB Type-C ジャックを使用しない場合は、キャップを取り付けてください。**
- **破損を防ぐため、USB ジャックのキャップを開閉する際は、無理な力を加えないようにしてください。**
- **USB ジャックキャップが正しく取り付けられていることを確認し、雨天時や洗車時にはUSB Type-C ジャックを使用しないでください。USB Type-C ジャックが濡れた場合は、車両の電源を切った状態で乾かしてから使用してください。**
- **USB Type-C ジャックに接続されたケーブルを引っ張ったり、力を加えたりしないでください。**

JAU92960

ETC コネクター

この車には ETC コネクターが搭載されています。ご使用については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10242

⚠ 警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAUA1272

イグニッションサーキットカットオフシステム

このシステムは、ギヤがニュートラル以外に入っているときのエンジン始動を制御します。サイドスタンドが上がっているがクラッチレバーが握られていないとき、もしくはクラッチレバーを握っているがサイドスタンドが下がっているときは、エンジン始動はできません。また、ギヤがニュートラル以外に入った状態でサイドスタンドを下げると、エンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って適時点検してください。

要　点

- この点検は、エンジンが暖まった状態で行ってください。
- スイッチ操作については、5-2 ページ、5-3 ページを参照してください。

JWA11541

⚠ 警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

JAUA1281

エンジンが停止した状態で：
1. サイドスタンドを下ろします。
2. エンジンオペレーションスイッチをオンにします。
3. メインスイッチをオンにします。
4. ギヤをニュートラルに入れます。
5. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

はい **いいえ** → ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：
6. サイドスタンドを上げます。
7. クラッチレバーを握ります。
8. ギヤを入れます。
9. サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？

はい **いいえ** → サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した後：
10. サイドスタンドを上げます。
11. クラッチレバーを握ります。
12. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

はい **いいえ** → クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは
正常です。**走行可能です。**

JAU1559B

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要　点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30142

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、8-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。（※） ● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

⚠警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

ならし運転

JAU31471

ならし運転のしかた

JAU27665

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 6300 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

エンジン始動

JAUA9133

イグニッションサーキットカットオフシステムは、以下の場合にエンジンを始動できます。

- ギヤがニュートラルの場合
- ギヤがニュートラル以外に入っており、サイドスタンドは格納され、クラッチレバーが引かれている場合

エンジンを始動するには：

1. 車両の電源をオンにし、エンジンオペレーションスイッチを“ ”にセットします。（5-3 ページ参照）

要　点

スマートキー装備モデルの場合：スマートキーがアンロック状態で、作動範囲内にある必要があります。

2. 本書に記載された通りに適切な表示灯・警告灯が点灯または消灯すること、ならびにその他の動作が正常に行われることを確認します。
   - 表示灯・警告灯に関する情報は 5-6 ページ、5-12 ページを参照してください。

要　点

- 油圧警告灯を除く、いずれかの表示灯または警告灯が点灯したままの場合はエンジンを始動しないでください。
- 油圧警告灯はエンジンが始動するまで点灯し続け、エンジン始動後は消灯します。
- 油圧警告灯が点灯しない、点灯状態にならない場合はエンジンを始動しないでください。

JCA29090

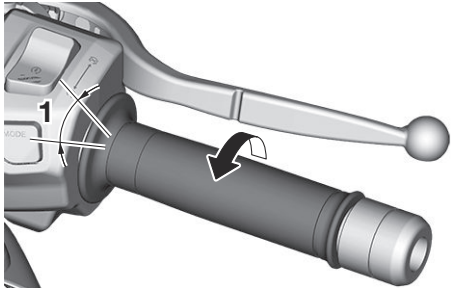
注 意

警告灯や表示灯が、何らかの問題または異常を知らせている場合は、ただちに車両の運転を停止してください。その後、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

3. ギヤをニュートラルにします。
4. スタータースイッチを押してエンジンを始動します。
5. エンジンが始動したらスイッチを離します。エンジンが始動しない場合は 5 秒後にはスイッチを離してください。再度エンジン始動を試みる場合は、10 秒間待ち、バッテリー電圧が回復してから、スイッチを押してください。

要　点

エンジンが始動しない場合、スロットルグリップを 1/4 回転（20°）開けた状態で再度始動してください。



1. 1/4 回転（20°）

JCA11043

注 意

エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速は避けてください。

JAU68221

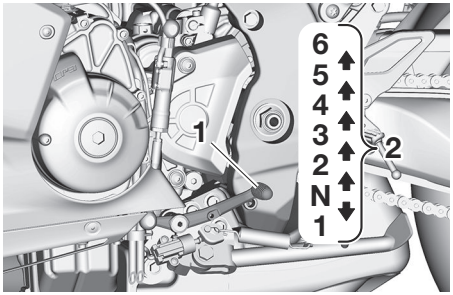
要　点

この車は、以下の機構を装備しています。

- 慣性計測装置（IMU）：メインスイッチがオンのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦オフにして、再度オンにするリセット操作をしてください。
- エンジン自動停止システム：車両が停止した状態で 20 分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAU91544

ギヤチェンジのしかた



1. シフトペダル
2. ギヤの位置

この車はリターン式の 6 段変速です。ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

要　点

- ニュートラル(**N**)にシフトするには、繰り返しシフトダウンして 1 速ギヤの位置になったところで、わずかにシフトアップします。
- この車はクイックシフターを装備しています。（3-3 ページ参照）

JCA22523

注 意

- **シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。**
- **ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしないでください。エンジンが停止しているとトランスミッションの潤滑が不十分になり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。**
- **クイックシフターを用いる場合を除き、クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。**

JAU64130

ギヤチェンジの速度

各ギヤでの走行速度およびシフトダウンのギヤチェンジは、以下の速度を目安として行ってください。

走行速度

1 速: 0 km/h–100 km/h
2 速: 20 km/h–135 km/h
3 速: 25 km/h–160 km/h
4 速: 30 km/h–180 km/h
5 速: 35 km/h–180 km/h
6 速: 40 km/h 以上

シフトダウン速度

6 速 → 5 速: 175 km/h 以下
5 速 → 4 速: 150 km/h 以下
4 速 → 3 速: 130 km/h 以下
3 速 → 2 速: 105 km/h 以下
2 速 → 1 速: 80 km/h 以下

JWA20720

警 告

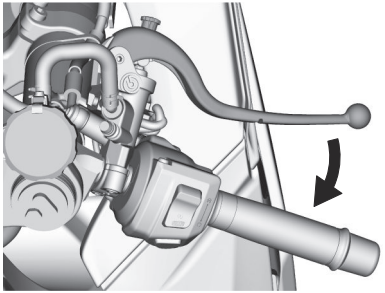
法定速度を守って走行してください。

JAU33176

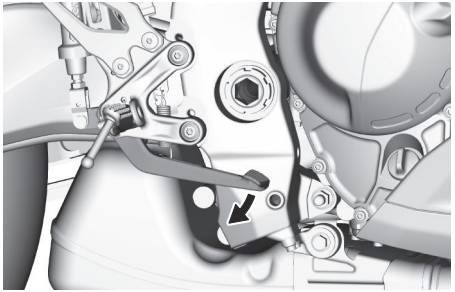
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

＜フロントブレーキ＞



＜リヤブレーキ＞



JWA11573

⚠警 告

- 急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

JCA26500

注 意

- 上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップならびにクラッチの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯したりするおそれがあります。
- 不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

⚠警 告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

6-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1 年点検と 2 年点検の 2 種類があります。

定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

⚠ 警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

⚠ 警 告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

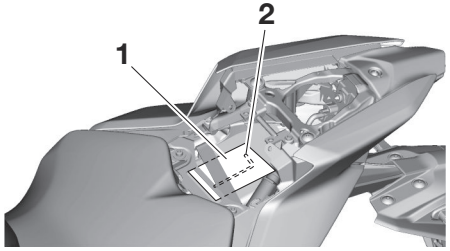
要　点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAUA2830

サービスツール

サービスツールは車両とは別に保管してください。ただし、六角レンチは必ずポーチに入れて図で示す場所に保管してください。



1. ポーチ
2. 六角レンチ

サービスツールは、この取扱説明書に記載されている、予防的整備および軽微な修理を目的としています。ただし、特定の点検整備作業を正しく行うには、トルクレンチやその他の工具が必要です。

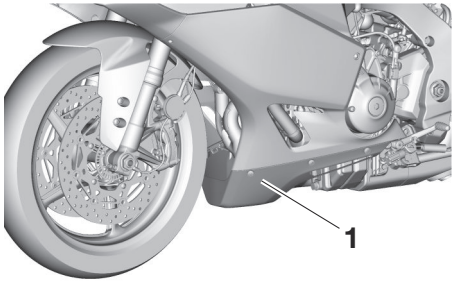
要　点

特定の作業に必要な工具や経験がない場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

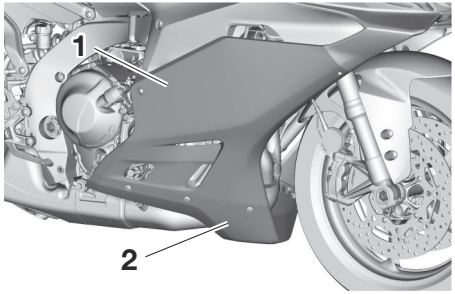
JAU18773

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



1. カバー A



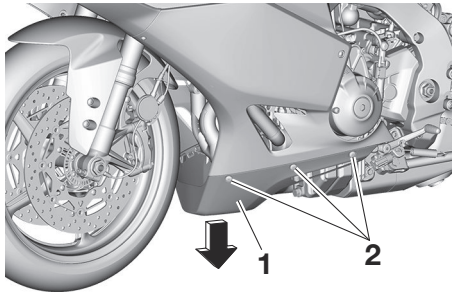
1. カバー B
2. カバー A

JAUA5182

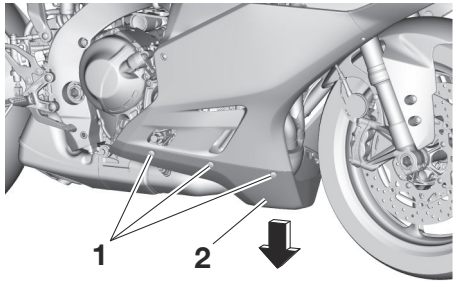
カバー A／B

<u>カバーの取り外しかた</u>

1. 両側のボルトを外し、図のようにカバー A を取り外します。



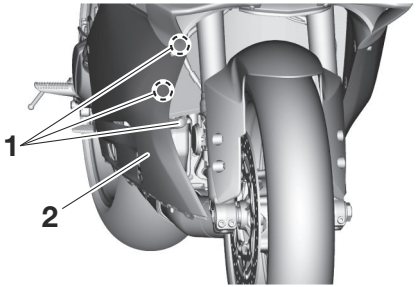
1. カバー A
2. ボルト



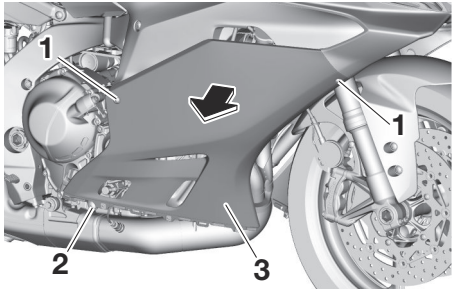
1. ボルト

2. カバー A

2. クイックファスナー、ボルト、ワッシャーを外し、図のようにカバー B を取り外します。



1. クイックファスナー
2. カバー B

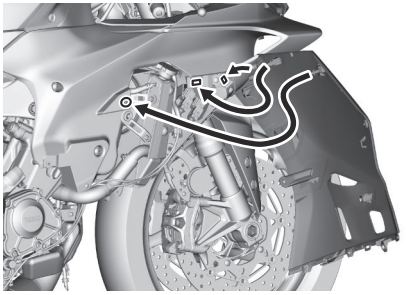


1. ボルト／ワッシャー
2. ボルト

3. カバー B

カバーの取り付けかた

1. 上部の突起を溝に差し込み、カバー B を元の位置に取り付けます。



2. クイックファスナー、ボルト、ワッシャーを取り付けます。
3. カバー A を元の位置に取り付け、両側のボルトを締め付けます。

JAU30378

エンジンオイル

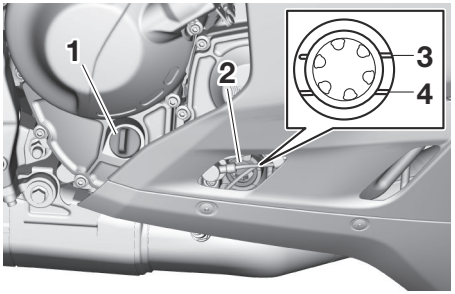
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを 2〜3 分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、オイルレベルが安定するまで数分間待ちます。その後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。

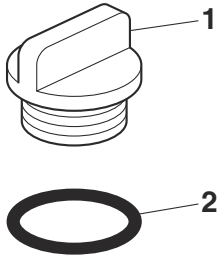


1. オイル注入口
2. エンジンオイル点検窓
3. フルレベル
4. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、9-3 ページ参照）

要　点

Oリングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口キャップ
2. Oリング

JAU47505

エンジンオイルの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
10000 km 走行ごと、または 1 年ごと
エンジンオイル量：
オイル交換時:
2.80 L
オイルフィルター取り外し時:
3.20 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
30000 km 走行ごと

JWA11861

⚠警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。 ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12261

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

8

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU91020

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

冷却水

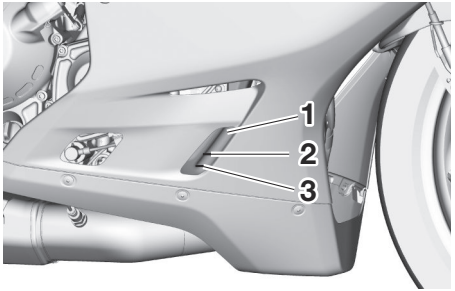
JAU30723

冷却水量の点検

要　点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



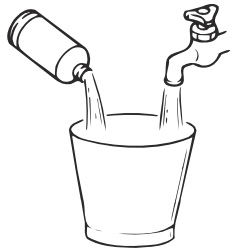
1. リカバリータンク
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30805

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。



JWA11882

⚠ 警 告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12112

注 意

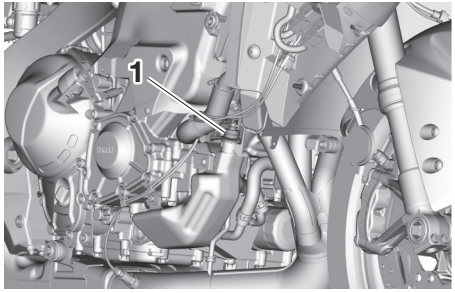
混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU74870

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、液面がロアレベルより下にあるときは、冷却水をフルレベルとロアレベルの中間まで補充します。

1. カバー B を取り外します。(8-2 ページ参照)
2. リカバリータンクキャップを外し、冷却水をフルレベルとロアレベルの中間まで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

3. リカバリータンクキャップ、カバー B を取り付けます。

要 点

冷却水の補充は、エンジンが冷えた状態で行ってください。

JCA12121

注 意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

JAU36765

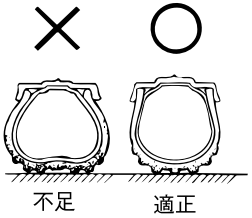
エアクリーナーエレメントの交換

エアクリーナーエレメントは、定期的な交換が必要です。
エアクリーナーエレメントの交換は、ヤマハ販売店へ依頼してください。
ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換する必要があります。ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU65360

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤ空気圧（冷間時）：
1 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
2 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)

要　点

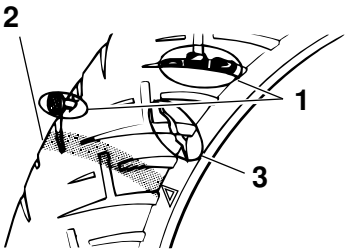
- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28776

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8 mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪 2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠警　告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：

前輪：
120/70ZR17M/C(58W)

後輪：
180/55ZR17M/C(73W)

指定タイヤ：

前輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX
RACING STREET RS11F

後輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX
RACING STREET RS11R

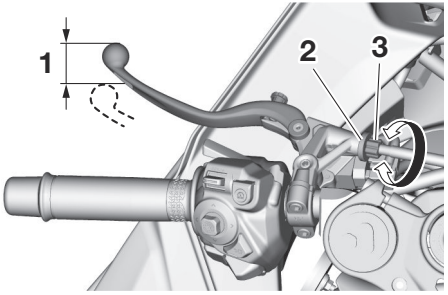
クラッチ

JAU48222

クラッチレバーの遊び

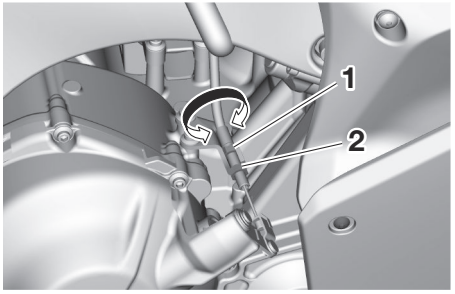
クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び
5.0–10.0 mm



1. 遊び
2. ロックナット
3. アジャスター

点検の結果、調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。
レバー側のアジャスターでクラッチレバーの遊びを規定値内に調整できない場合は、クランクケース右側にあるロックナットをゆるめて、アジャスターで調整します。



1. アジャスター
2. ロックナット

JWA11841

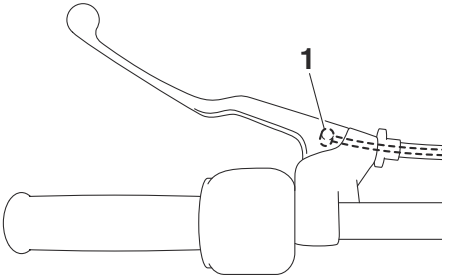
⚠ 警 告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。 なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA12092

注 意

- **調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。**
- **1 か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。**



1. ケーブル取り付け部

JAU31122
ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検
ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741
⚠警 告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

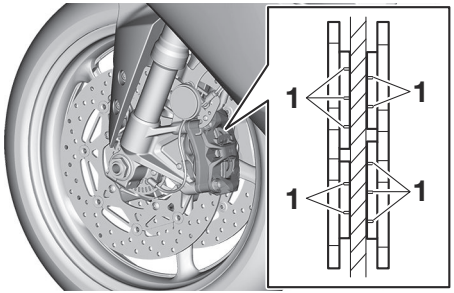
ブレーキのきき具合の点検
乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。
ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761
⚠警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

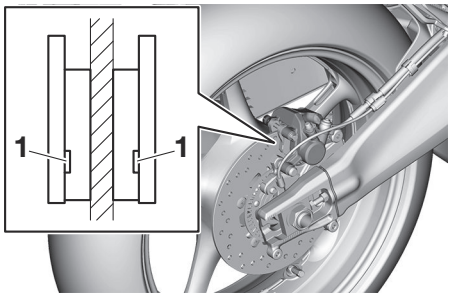
JAU36505
ブレーキランプスイッチの点検
ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。ブレーキランプは ABS の構成部品ですので、異常があるときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU85500
ブレーキパッドの点検
ブレーキパッドの損傷や摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。
<フロントブレーキ>
ブレーキパッドのインジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。



1. インジケーター溝

<リヤブレーキ>
ブレーキパッドのインジケーター溝まで摩耗したら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

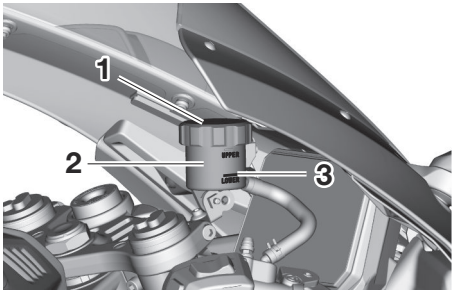


1. インジケーター溝

JAU44233

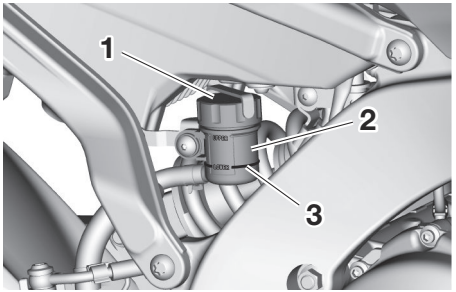
ブレーキ液量の点検

＜フロントブレーキ＞



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

＜リヤブレーキ＞



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。
液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

⚠ 警 告

- **ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために 2 年ごとに交換してください。**

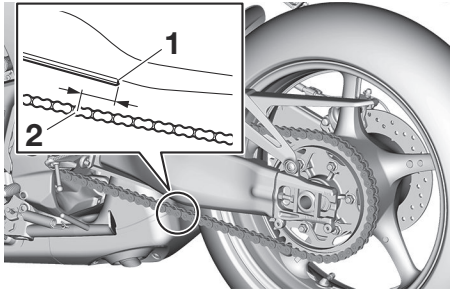
JAU22762

ドライブチェーン

JAUA5160

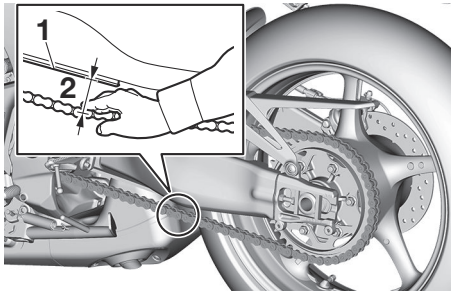
ドライブチェーンの点検

1. ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立てます。
2. 図のように、ドライブチェーンガードの端から前方へ 49.0 mm を測定し、チェーンの中間位置（ポイント B）を見つけます。



1. ドライブチェーンガード端
2. ポイント B

3. ドライブチェーンの中間位置（ポイント B）を手で下側に押します。このとき、ドライブチェーンガードの下側からポイント B までの長さ（セット長 A）が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。



1. ドライブチェーンガード
2. セット長 A

要　点

セット長 A（ドライブチェーンのたわみ量）を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

セット長 A：
35.0–40.0 mm

4. ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

JCA17791

注 意

ドライブチェーンのたわみ量が 45.0 mm 以上の場合、走行しないでください。ドライブチェーンがリヤアームなどの部品に接触して損傷を与えることがあります。

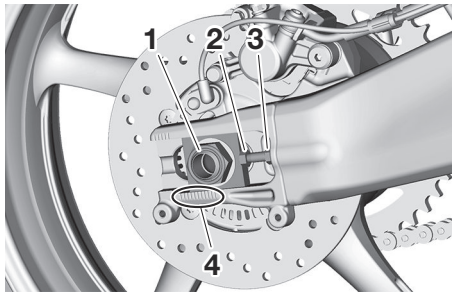
ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。

5. 車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU74260

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロッキングナットをゆるめます。



1. セルフロッキングナット
2. アジャスター
3. ロックナット
4. 刻み目盛り

2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。

要　点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロッキングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
セルフロッキングナット：
105 N·m (10.5 kgf·m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
16 N·m (1.6 kgf·m)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JAU23027

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注 意

この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。
- **スチーム洗浄はしないでください。**
- **シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。**

JAU28621

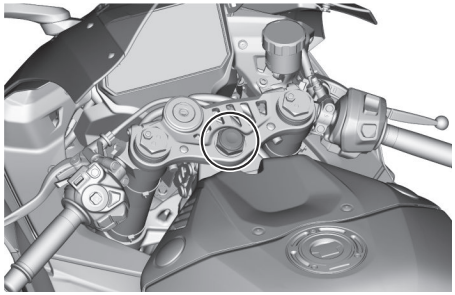
車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU74800

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠ 警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。 爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

JCA23660

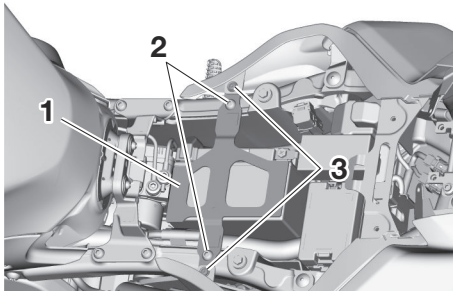
注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12 Vです。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、指定されたバッテリーを使用してください。指定以外のバッテリーを使用すると、IMU が故障してエンジンが停止するおそれがあります。**

JAUA7210

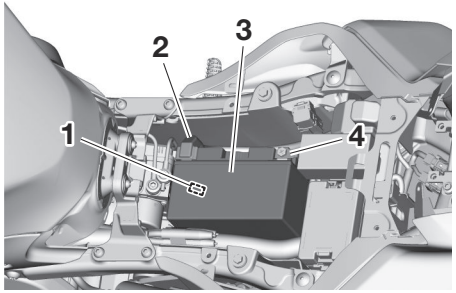
バッテリーの取り外し

1. シートを取り外します。(5-45 ページ参照)
2. ボルトとクイックファスナーを外し、バッテリーホルダーを取り外します。



1. バッテリーホルダー
2. ボルト
3. クイックファスナー

3. −（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



1. ダンパー
2. ＋リード線
3. バッテリー
4. −リード線

バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

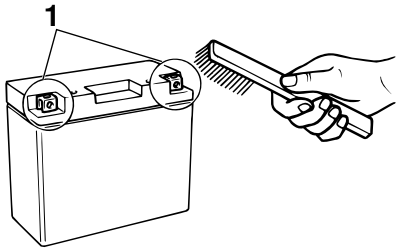
要　点

バッテリーを取り付けるときは、バッテリーボックスの内側に付いているダンパーをはがし取らないように注意して取り付けてください。

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

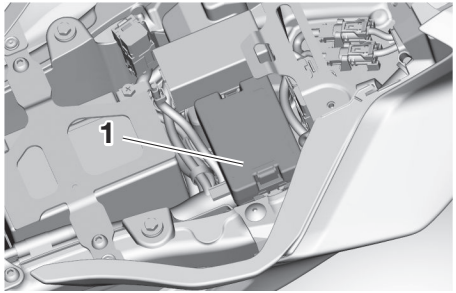


1. ターミナル

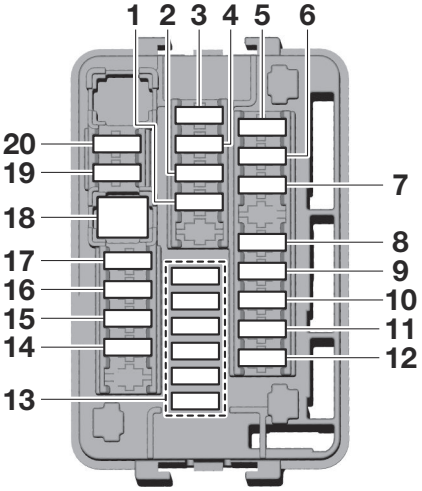
JAUA1844

ヒューズ交換

ヒューズボックスは、ライダーシートの下にあります。(5-45 ページ参照)



1. ヒューズボックス



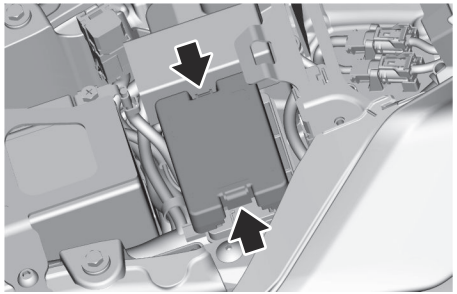
1. サブラジエターファンモーターヒューズ
2. ラジエターファンモーターヒューズ
3. ブレーキランプヒューズ
4. クルーズコントロールヒューズ
5. DC ターミナルヒューズ 1
6. アクセサリーヒューズ
7. アクセサリーヒューズ 2
8. シグナルヒューズ
9. イグニッションヒューズ
10. イグニッションヒューズ 2
11. ヘッドライトヒューズ
12. ABS コントロールユニットヒューズ
13. スペアヒューズ
14. 電子制御スロットルバルブヒューズ
15. フューエルインジェクションヒューズ
16. バックアップヒューズ 2 (ECU／イモビライザーシステム)
17. バックアップヒューズ
18. メインヒューズ
19. ABS モーターヒューズ
20. ABS ソレノイドヒューズ

ヒューズが切れた場合は、以下のように交換します。

要　点

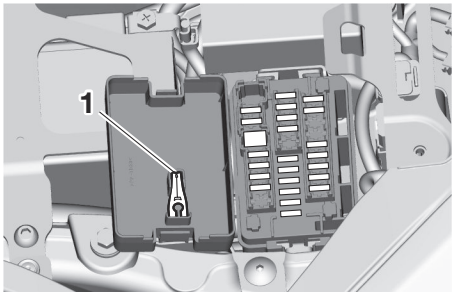
ヒューズを取り外すときは、ヒューズプラーをご使用ください。

1. 車両の電源をオフにします。
2. 図のように、ヒューズボックスカバーの 2 点を内側に押しながら上方向に引き、カバーを取り外します。



3. ヒューズプラーで切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを

取り付けます。



1. ヒューズプラー

規定ヒューズ：
DC ターミナル 1:
5.0 A
メイン:
50.0 A
アクセサリー:
2.0 A
アクセサリー 2:
2.0 A
ヘッドライト:
7.5 A
ブレーキランプ:
2.0 A
シグナル:
7.5 A
イグニッション:
10.0 A
イグニッション 2:
7.5 A
ラジエターファンモーター:
15.0 A
サブラジエターファンモーター:
15.0 A
ABS モーター:
30.0 A
フューエルインジェクション:
7.5 A
ABS ソレノイド:
15.0 A
ABS コントロールユニット:
7.5 A
クルーズコントロール:
2.0 A
バックアップ:
7.5 A
バックアップ 2:
15.0 A
電子制御スロットルバルブ:
7.5 A

4. 車両の電源をオンにし、装置が正しく作動することを点検します。
5. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。
6. ヒューズプラーを戻し、ヒューズボックスカバーを取り付けます。

JCA12862

注 意

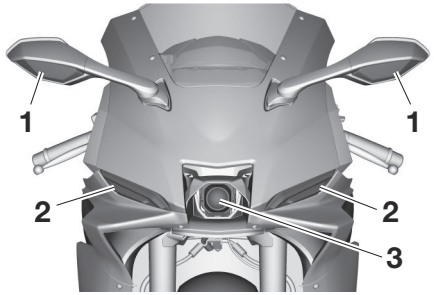
● 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の

過熱や焼損の原因になります。

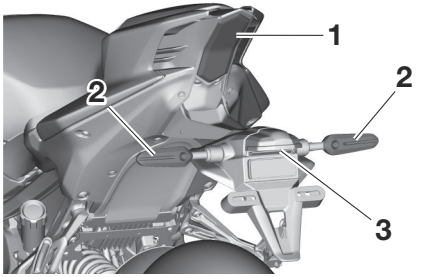
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

JAU29448

灯火装置および方向指示灯の点検



1. 方向指示灯（前）
2. マーカーランプ
3. ヘッドライト



1. ブレーキ/テールランプ
2. 方向指示灯（後）
3. 番号灯

1. 車両の電源をオンにします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（8-16ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（10-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

8

JAU29571
運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

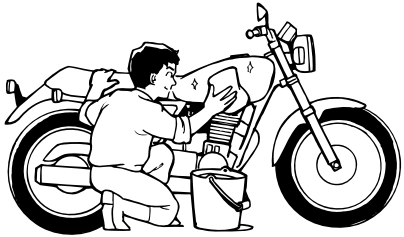
- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

JAU27796

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

⚠ 警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12215

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。**

- **ウインドスクリーン、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。**
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

要　点

- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU28001

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
（工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。）
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11961

⚠警　告

変形したり、損傷したアルミフレームやキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注　意

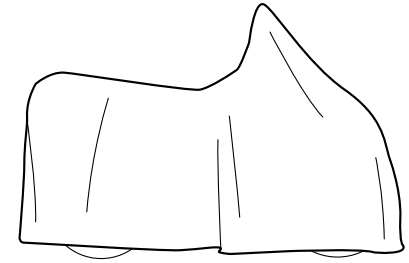
- **縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。**
- **アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。**

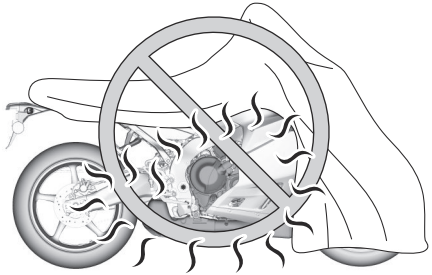
JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。





JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28116

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。

ヤマルーブ RS4GP は、ヤマハ発動機の MotoGP レーシングチームにおいて技術開発されたテクノロジーを高次元でフィードバックしています。

高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。

高性能エンジンに適した、ヤマルーブシリーズ最高峰の高性能オイルです。

低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイ

ル。
大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。
高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

ヤマルーブスポーツ
走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。
価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。
ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス
経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。
ヤマハ車の開発テストに使用され、工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。
コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次の URL を入力してホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

https://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　検索

寸法:
- 全長:
  - 2070 mm
- 全幅:
  - 705 mm
- 全高:
  - 1180 mm
- シート高:
  - 830 mm
- 軸間距離:
  - 1420 mm
- 最低地上高:
  - 140 mm

重量:
- 車両重量:
  - 195 kg
- 乗車定員:
  - 2 名

性能:
- 最小回転半径:
  - 3.4 m

エンジン:
- 行程:
  - 4 ストローク
- 冷却方式:
  - 水冷
- 動弁機構:
  - DOHC
- 配列:
  - 直列
- 気筒数:
  - 3 気筒
- 総排気量:
  - 888 cm^3

フロントブレーキ:
- ブレーキ形式:
  - 油圧式ダブルディスクブレーキ
- 指定ブレーキフルード:
  - BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ:
- ブレーキ形式:
  - 油圧式シングルディスクブレーキ
- 指定ブレーキフルード:
  - BF-4 (DOT-4)

フロントタイヤ:
- 種類:
  - チューブレス
- サイズ:
  - 120/70ZR17M/C(58W)
- メーカー/銘柄:
  - BRIDGESTONE/BATTLAX
  - RACING STREET RS11F

リヤタイヤ:
- 種類:
  - チューブレス
- サイズ:
  - 180/55ZR17M/C(73W)
- メーカー/銘柄:
  - BRIDGESTONE/BATTLAX
  - RACING STREET RS11R

動力伝達機構:
- 1 速:
  - 2.571 (36/14)
- 2 速:
  - 1.947 (37/19)
- 3 速:
  - 1.619 (34/21)
- 4 速:
  - 1.380 (29/21)
- 5 速:
  - 1.190 (25/21)
- 6 速:
  - 1.037 (28/27)

エレクトリカル:
- 電圧:
  - 12V

製品仕様

バルブワット数:
ヘッドライト:
LED
ブレーキ/テールランプ:
LED
方向指示灯（前）:
LED
方向指示灯（後）:
LED
番号灯:
5.0 W
マーカーランプ:
LED

エンジンオイル:
推奨オイル:
ヤマルーブ RS4GP、プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

エンジンオイル量:
オイル交換時:
2.80 L
オイルフィルター取り外し時:
3.20 L

冷却水容量:
リザーブタンク（FULL レベルまで）:
0.28 L
ラジエターと全ての経路:
1.78 L

バッテリー:
バッテリー型式:
YTZ10S
バッテリー容量:
12 V, 8.6 Ah (10 HR)

スパークプラグ:
メーカー/型式:
NGK/LMAR9A-9
プラグギャップ:
0.8–0.9 mm

JAU36645

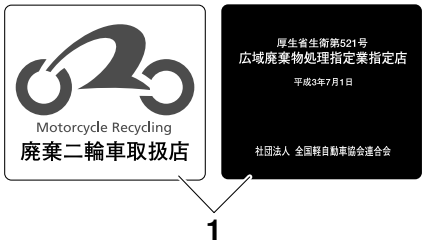
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



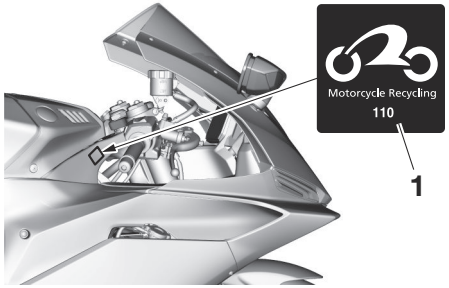
1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。
ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム
https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/
公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28393

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

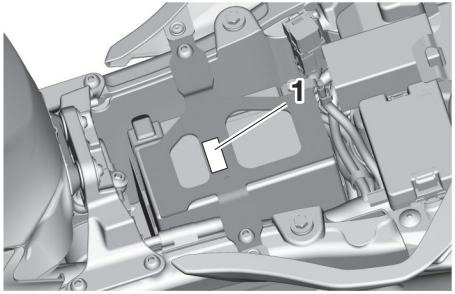
サービスマニュアル　部品番号：
QQS-CLT-000-BKN

JAU28457

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、ライダーシート下のバッテリーホルダーに貼り付けてあります。

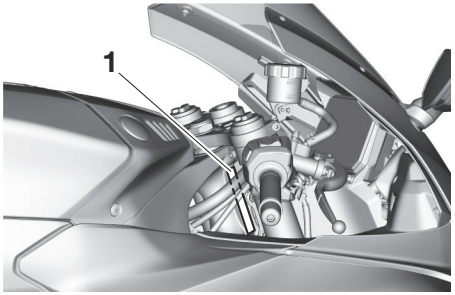


1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。
車名は
YZF-R9
モデルラベル
製品仕様を示しています。
O
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号

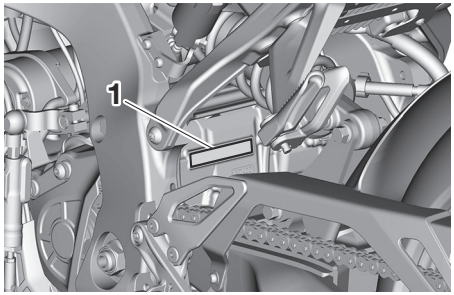


1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

原動機番号

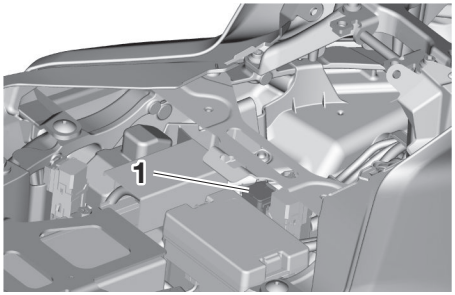


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU73861

故障診断コネクター



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

ユーザー情報

JAUA1211

車両情報の記録に関して

これはヤマハ発動機（以下、当社といいます）の車両情報利用についての概要です。詳細については、当社 WEB サイトのプライバシー・ポリシーをご確認ください。

https://global.yamaha-motor.com/jp/privacy/

車両情報の記録と収集方法

この車両に搭載されているコンピューターは、次の３種類の車両情報を記録しています。

1）車体番号

2）エンジン/モーターの使用状況、車速、走行距離などの車両稼働状況の情報

3）故障診断コード（DTC）など、車両の状態を示す情報

記録した車両情報は車両点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、当社のサーバーに送信されます。

車両情報の利用目的

当社は収集した車両情報を以下の目的で使用します。

1）適切なメンテナンスや故障探求のため

2）適正な保証修理判定のため

3）製品の研究開発

4）製品、機能、およびサービスの品質向上のため

5）その他の事業目的を達成するため

6）法的義務の履行や係争事案対応のため

11

車両情報の提供に関して

利用目的の達成に必要な範囲内で、子会社、関連会社、業務提携会社、ヤマハ販売店、および業務委託先に情報を提供する場合があります。

お問い合わせ窓口

車両情報の取扱いに関しての請求、質問やご要望がある場合は、以下のメールアドレスにお問合せください。

ヤマハ発動機株式会社
〒 438-8501 静岡県磐田市新貝 2500
dpo@yamaha-motor.co.jp
こちらの連絡先は、車両情報収集に関するお問い合わせのみに使用させていただいております。
関連のないお問合せをいただいた場合、回答できないことがございます。あらかじめご了承ください。
お客様のご要望に的確にお応えするため、ご連絡いただく際には、**お客様の名前、住所、電話番号、メールアドレス等の連絡先と車体番号**をお知らせください。ご連絡いただいた内容に不明な点がある場合は、お客様にご連絡させていただきます。なお、確認が取れない場合はご要望に応じられない可能性があります。

索引

あ
あなた自身と同乗者のために.....1-1
アフターケア用品について..... 9-3
アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い.....9-2
アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）.....8-14

い
ESS（緊急停止信号）システム..... 3-10
ETC コネクター..... 5-56
EBM（エンジンブレーキマネジメント）.....3-3
イグニッションサーキットカットオフシステム.....5-56
イモビライザーシステム..... 5-2

う
運行において異常が認められた箇所の点検.....8-19

え
エアクリーナーエレメントの交換.....8-7
ABS..... 5-42
ABS 警告灯.....5-7
SC（スタビリティコントロールシステム）.....3-1
SCS（スライドコントロールシステム）.....3-2
LIF（リフトコントロールシステム）..... 3-2
LCS（ローンチコントロールシステム）.....3-4
エンジンオイル.....8-3
エンジンオペレーションスイッチ.....5-4
エンジン警告灯.....5-6
エンジン始動.....7-1
エンジンのかかり具合、異音の点検 8-5

か
カバーの取り外し、取り付け.....8-2
環境・住民の方との調和のために..... 1-6

き
キーの取り扱い.....5-1
ギヤチェンジのしかた..... 7-2
QS（クイックシフター）..... 3-3

く
クラッチ..... 8-9
クルーズコントロール/YVSL スイッチ 5-5
クルーズコントロールシステム.....3-6

け
警告灯と表示灯.....5-6
原動機番号.....11-3

こ
故障診断コネクター..... 11-3
小物入れ.....5-47

さ
サービスツール.....8-2
サービスマニュアル（別売）の紹介 11-2
サイドスタンド.....5-56

し
シート..... 5-45
シフトタイミングインジケーターランプ 5-7
シフトペダル.....5-42
車体各部の給油脂状態の点検.....8-13
車台番号.....11-2
車両情報.....11-2
車両情報の記録に関して..... 11-4
車両の特徴.....3-1
ジョイスティックとホームボタン..... 5-5
初期設定..... 4-3
書類入れ.....5-47

す
スタビリティコントロール表示灯..... 5-8
スマートフィーチャー..... 4-1

せ
接続エラーが発生したときは.....4-7
洗車..... 9-1

た
タイヤ..... 8-7

ち
駐車..... 7-4

て
TCS（トラクションコントロールシステム）.....3-1
DC コネクター.....5-54
ディスプレイ.....5-9
低速、加速の状態の点検..... 8-5
点検整備の実施.....8-1
電話..... 4-6

と
灯火装置および方向指示灯の点検 8-18
ドライブチェーン.....8-12
ドライブチェーンの給油..... 8-13

な

ナビゲーションシステム..... 4-5
ならし運転.....7-1

に

日常点検箇所／点検内容..... 6-1
日常点検の実施.....6-1
ニュートラルランプ.....5-6
二輪車を廃棄する場合は？.....11-1

ね

燃料..... 5-44

は

ハザードスイッチ.....5-5
バックミラー.....5-48
バッテリー.....8-14
ハンドルスイッチ.....5-3

ひ

BSR（バックスリップレギュレーター）.....3-4
BC（ブレーキコントロール）.....3-3
PWR（パワーデリバリーモード）.....3-1
ヒューズ交換.....8-16

ふ

フューエルタンクキャップ.....5-43
ブレーキ..... 7-3
ブレーキ液量の点検..... 8-11
ブレーキシステム.....5-42
ブレーキパッドの点検..... 8-10
ブレーキランプスイッチの点検.....8-10
ブレーキレバー／クラッチレバーの握り調整.....5-54
ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検.....8-10
フロントフォークの調整..... 5-48

へ

ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ.....5-4
ヘルメットホルダー..... 5-47

ほ

方向指示器スイッチ..... 5-4
方向指示器表示灯.....5-6
ホーンスイッチ.....5-4
保管のしかた.....9-3
歩行者と他の車のために..... 1-5

め

メインスイッチ.....5-2
メニューシステム..... 5-21
メニューシステムの操作..... 4-1

も

モデルラベル..... 11-2

ゆ

USB Type-C ジャック..... 5-55

ら

ライダーフートレスト位置の調整 5-46

り

リヤクッションの調整..... 5-51

れ

冷却水..... 8-5

わ

YRC（ヤマハライドコントロール）..... 3-1
YRC モードボタン.....5-5
Y-TRAC Rev アプリ..... 4-2
YVSL（ヤマハバリアブルスピードリミッター）..... 3-8

Yamaha Motorcycle Connect





あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

YAMAHA

Q8Q-CLT-100-D0Y

PRINTED IN JAPAN
2026.06-0.3×1 CR (J)